

# 単元指導案集



令和4年3月

鹿児島県立青少年研修センター

## 《 目 次 》

### 野外活動及び自然観察

- 【小学5年 家庭科】 野外炊事  
家族の生活再発見，食べて元気に，できるよ家庭の仕事・・・・・・・・・・ 1
- 【小学5年 特別の教科 道徳】 野外協力ゲーム  
相互理解，寛容（協力することの大切さ）・・・・・・・・・・ 8
- 【小学5年 社会科】 白銀坂遠行  
わたしたちの生活と森林・・・・・・・・・・ 16

### 文化創作(クラフト)活動

- 【小学5年 図画工作科】 ベニヤパズル  
糸のこの寄り道散歩・・・・・・・・・・ 22
- 【中学1年 美術科】 陶芸A  
暮らしに息づく土の造形・・・・・・・・・・ 30
- 【小学3年 理科】 昆虫クラフト  
昆虫を調べよう・・・・・・・・・・ 35

### レクリエーション

- 【小学5年 体育科】 室内運動会  
体づくり運動（体ほぐしの運動）・・・・・・・・・・ 43
- 【中学1年 学級活動】 レクリエーション2  
よりよい人間関係の形成・・・・・・・・・・ 50

### 演 習

- 【中学1年 特別の教科 道徳】 グループワークトレーニング（GWT）  
よりよい学校生活，集団生活の充実（協力）・・・・・・・・・・ 56

## 家族の生活再発見，食べて元気に，できるよ家庭の仕事

### 概要版

○ 学年・教科 小学5年 家庭科（3時間）

○ 単元目標

野外炊事を通して，火のおこし方や調理の仕方等について理解し，協力して食事を  
作る楽しさや食事のありがたさ，大切さに気付く。また，食生活について問題を見い  
だし，よりよくしていこうと工夫することができる。

○ 活動プログラム 野外炊事

○ 単元計画（例）

学校における  
学習  
(1h)

- ・ 食生活についての自分の課題を見付ける。
- ・ 野外炊事について「食器係」「食材係」「かまど係」の役割分担を決める。

青少研における  
学習  
3h

- ・ 野外炊事を行う中で，協力して食事を作る楽しさや食事のありがたさ，大切  
さについて気付くことができるように実践しながら学ぶ。
- ・ 今後の学校生活や家庭生活に生かせることについて，実践を振り返り，意見  
交換を行う。

学校における  
学習  
(1h)

- ・ 野外炊事で体験したことを基に，これまでの自分自身を振り返り，今後の生  
活に生かしたいことをまとめる。

○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

#### 知識及び技能，安全

- 調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能（調理手順や用具の安全で衛生的な取  
扱い，調理に適した材料の切り方，後片付け）を身に付けることができる。

#### 思考力・判断力・表現力等

- おいしく食べるために，調理の仕方を考え，工夫することができる。

#### 学びに向かう力，人間性等

- 食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことができる。

## 指導案

### 1 単元名

「家族の生活再発見，食べて元気に，できるよ家庭の仕事」

＜学習指導要領 家庭科目標＞

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して，生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

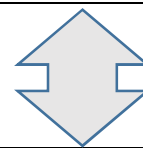
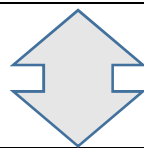
- (1) 家族や家庭，衣食住，消費や環境等について，日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現する等，課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み，家族や地域の人々との関わりを考え，家族の一員として，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

文部科学省 平成 29 年 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「家庭編」から引用

＜小学校家庭，中学校技術・家庭 家庭分野で育成を目指す資質・能力の系統表＞

		小学校	中学校
知識・理解	A 家族・家庭生活	日常生活に必要な家族や家庭，衣食住，消費や環境等についての基礎的な理解と，それらに係る技能	生活の自立に必要な家族・家庭，衣食住，消費や環境等についての基礎的な理解と，それらに係る技能
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活と家族の大切さ，家族との協力についての基礎的な理解</li> <li>・家庭の仕事と生活時間についての基礎的な理解</li> <li>・家族との関わりについての基礎的な理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭の基本的な機能，家族や地域の人々と協力・協働についての基礎的な理解</li> <li>・家族関係，家庭生活と地域との関わりについての基礎的な理解</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々（幼児又は低学年の児童や高齢者等異なる世代の人々）との関わりについての基礎的な理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の発達と生活，幼児の遊びの意義についての基礎的な理解</li> <li>・幼児や高齢者との関わり方についての基礎的な理解</li> </ul>
	B 衣食住の生活	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割についての基礎的な理解</li> <li>・調理の基礎についての基礎的な理解と技能</li> <li>・栄養を考えた食事についての基礎的な理解</li> </ul>
衣生活		<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の主な働き</li> <li>衣服の着用と手入れについての基礎的な理解と技能</li> <li>・布を用いた製作についての基礎的な理解と技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服と社会生活との関わり</li> <li>衣服の選択と着用，計画的な活用と手入れについての基礎的な理解と技能</li> <li>・布を用いた製作についての基礎的な理解と技能</li> </ul>
住生活		<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの主な働き</li> <li>季節の変化に合わせた住まい方</li> <li>住まいの整理・整頓や清掃の仕方についての基礎的な理解と技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住居の基本的な機能</li> <li>家族の生活と住空間との関わり</li> <li>家族の安全を考えた住空間の整え方についての基礎的な理解</li> </ul>
C 活消費環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物や金銭の使い方と買物についての基礎的な理解と技能</li> <li>・環境に配慮した生活についての基礎的な理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭の管理と購入についての基礎的な理解と技能</li> <li>・消費者の権利と責任についての基礎的な理解</li> </ul>	
思考		日常生活の中から問題を見出して課題を設定し，課題を解決する力	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し，これからの生活を展望して課題を解決する力

力・判断力・表現力等	A 家庭生活		・日常生活の中から家族・家庭生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力	・家族・家庭や地域における生活の中から家族・家庭生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力
	B 衣食住の生活	食生活	・日常生活の中から食生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力	・家族・家庭や地域における生活の中から食生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力
		衣生活	・日常生活の中から衣生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力	・家族・家庭や地域における生活の中から衣生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力
		住生活	・日常生活の中から住生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力	・家族・家庭や地域における生活の中から住生活について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力
C 活・消費生活・環境		・日常生活の中から消費生活・環境について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力	・家族・家庭や地域における生活の中から消費生活・環境について問題を見出し、課題をもって考え、解決する力	
学びに向かう力・人間性等			家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度
	A 家庭生活		・家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度	・家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度 ・地域の人々と関わり、協働しようとする態度
	B 衣食住の生活	食生活	・食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・食生活における日本の生活文化を大切にしようとする態度	・食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・食生活における日本の生活文化を継承しようとする態度
		衣生活	・衣生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・衣生活における日本の生活文化を大切にしようとする態度	・衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・衣生活における日本の生活文化を継承しようとする態度
		住生活	・住生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・住生活における日本の生活文化を大切にしようとする態度	・住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・住生活における日本の生活文化を継承しようとする態度
C 活・消費生活・環境		・身近な消費生活と環境をよりよくしようと工夫する実践的な態度	・身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度	



生活の課題と実践	A 家庭生活		・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できること	・家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること
	B 衣の食住生活			・食生活、衣生活、住生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること
	C 活・消費生活・環境			・自分や家族の消費生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践できること

文部科学省 平成 29 年 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「家庭編」から引用

## 2 単元について

### (1) 単元計画（例）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】 問題の意識化	「家族の生活再発見（1h）」 家族の生活を見つめよう(0.5h) 生活を支える家庭の仕事(0.5h) ・ 食生活についての課題を見付ける。 ・ 野外炊事について「食器係」「食材係」「かまど係」の役割分担を決める。	(1)	センター (学校)
【野外炊事の実際】 活動の実際	「食べて元気に(11h)」から「3h」 ① 野外炊事の仕方や道具、後片付け、安全面について確認する。 ② 役割分担に沿って、友だちと協力しながら活動する。 ③ 食事をとり、後片付けを行う。 ④ 振り返りを行う。食の安全や食事のありがたさ等について確認する。	3	センター
【事後学習】 振り返り	「できるよ、家庭の仕事(2h)」から「1h」 自分にできる仕事を見つけよう(0.5h) 工夫して仕事をしよう(0.5h) ・ 野外炊事を通して気付いたことについて、それぞれの思いを共有する。 ・ 今後の生活の中で、生かせることはないか考え、実践に繋げていく。	(1)	センター (学校)

### (2) 集団宿泊学習として取扱う利点

本センターでの野外炊事を通して、自分でできることを見付け、食生活をよりよくしていこうと工夫することの大切さに気付くことができるようになる。また、ガスや電気を使わずに調理するという「不便さ」、「困難さ」を通して、子どもたちのいつもとは違う気持ちを引き出すことができる。さらに、協力することや役割分担することを通して、友だちのよさや家族のよさに気付き、互いの存在を尊重し合うことができるようになる。

### (3) 主体的で対話的な深い学びの視点

#### ア 主体的な学び

##### (7) 目指す子どもの姿

調理の仕方を進んで考え、話し合い、自分の役割を自覚しながら協力して活動する姿を目指す。

##### (イ) 指導のポイント

食器係、食材係、かまど係の役割について確認させ、それぞれの役割をやり遂げさせるとともに、他の役割との連携を意識させるようにする。

## イ 対話的な学び

### (7) 目指す子どもの姿

野外での効率的な炊事について考える中で、他の役割を尊重しながらも自分の役割をやり遂げ、声をかけ合い、より効率的に活動する姿を目指す。

#### (イ) 指導のポイント

他の役割の進み具合に留意させ、声をかけ合う中で、効率的に調理できるようにする。また、活動後の振り返りでは、互いの思いを伝え合う場面を設定し、多様な考え方があることに気付かせるようにする。

## ウ 深い学び

### (7) 目指す子どもの姿

野外炊事を通して身に付けた、よりよい人間関係を形成するための知識や技能を、今後の生活に生かしていこうとする姿を目指す。

#### (イ) 指導のポイント

振り返りを行う中で、自分の役割をやり遂げることや声をかけ合い効率的に調理することの大切さに気付かせるように促し、今後の食生活の見直しができるようにする。

## 3 活動プログラムの目標・評価規準

- ・ 野外炊事を通して、火のおこし方や調理の仕方等について理解できるようにし、協力して食事を作る楽しさや食事のありがたさ、大切さに気付くようにする。
- ・ 自分の食生活について課題を見だし、よりよくしていこうと工夫できるようにする。

育成する資質・能力	目 標	評価規準
知識及び技能、 安全	食の安全や衛生、食事のありがたさ等について理解し、調理の手順に従って、安全に気を付けて炊事道具を使用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 食の安全や衛生について理解している。</li><li>・ 食事のありがたさについて理解している。</li><li>・ 安全に炊事道具を使用している。</li></ul>
思考力・判断力 表現力等	野外での効率的な炊事について考え、友だちと創意工夫しながら活動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 野外での効率的な炊事について考え、役割分担をしている。</li><li>・ 野外での効率的な炊事を実践している。</li></ul>
学びに向かう力、 人間性等	野外炊事に興味をもち、準備から後片付けまで協力して取り組むことで、食生活をよりよくしようと工夫できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 野外炊事に興味をもち、食生活をよりよくしようと工夫している。</li></ul>

4 青少年研修センターでの展開 [家庭科 3時間]

(1) ねらい

野外炊事を通して、火のおこし方や調理の仕方等について理解できるようにし、協力して食事を作る楽しさや食事のありがたさ、大切さに気付くようにする。

(2) 展開 ※ 評価

活動・場所	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
<p>【事前学習】 学校</p>	<p>1 自分の食生活を見直し、「自分でできること」や「してもらっていること」について整理し、話し合い、本時のめあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">食生活について見直そう。</div> <p>2 野外炊事の手順について学び、「役割分担の大切さ」に気付く。</p> <p>3 自分の役割を決める。 ※ 効率的な役割分担をしようとしているか。</p> <p>4 効率的な野外炊事について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食生活の見直しを通して、「役割分担」への動機付けを図る。</li> <li>※ 「食生活についての課題」を見付けようとしているか。</li> <li>・ 食器係，食材係，かまど係の役割について，資料を基に理解させる。</li> <li>・ 協力して調理することの大切さに気付かせる。</li> <li>・ 係の連携，対話が大切であることに気付かせる。</li> </ul>	<p>家庭科 (1)</p>
<p>【野外炊事】 センター</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;打合せの実施&gt; 事前に担当職員と団体引率者で、引率者の配置や注意事項，連絡体制等について確認を行う。</p> </div> <p>1 安全面や衛生面について学び、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">効率的に野外炊事をしよう。</div> <p>2 各係の役割を確認し，意識化を図る。(取組に向かう姿勢等)</p> <p>3 野外炊事の実際</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○食器係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調理用器具の確認</li> <li>・ 食事テーブルの確認</li> </ul> <p>○食材係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食材の確認</li> <li>・ 食材の調理</li> <li>・ ゴミの分別</li> </ul> <p>○かまど係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薪の確認</li> <li>・ 火おこし，後始末</li> </ul> </div> <p>4 活動の終わりに，活動を通して感じたことや気付いたこと等を発表し合い，思いを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全面や衛生面についての指導を十分に行う。</li> <li>・ 効率的な野外炊事について考えさせ，友だちと創意工夫しながら活動できるようにする。</li> <li>・ 一人一人の行動を観察し評価する。</li> <li>※ 安全に気を付けて調理をしているか。</li> <li>※ 火のおこし方や調理の仕方等について理解し，協力して食事を作ろうとしているか。</li> <li>・ 野外炊事の楽しさや食事のありがたさ，大切さに気付かせる。</li> </ul>	<p>家庭科 3</p>



<p><b>【事後学習】</b> 学校</p>	<p>&lt;振り返りの実施&gt; 一人一人の発言やつぶやきを汲み取り，学習状況の把握に努める。</p> <p>1 野外炊事を通して学んだ「食事のありがたさや大切さ」について振り返り，今後の生活に生かせることがないか考える。</p> <p>2 自分自身でできること，役割分担をして協力すること等，今後の生活に具体的に生かせることを全体で共有する。</p> <p>※ <u>食生活をよりよくしようと工夫しているか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人で考えさせることで，自分自身の今後の生活に生かせるようにする。</li> <li>・ 今後の学校生活や家庭生活につながるような，多面的・多角的な見方に発展させる。</li> </ul>	<p>家庭科 (1)</p>
<p>&lt;自己評価や相互評価の実施&gt; 自分でできることに気付くことで，意欲を高めたり，学び方を改善したりする。(宿泊学習等のしおりにおけるワークシート等)</p>			

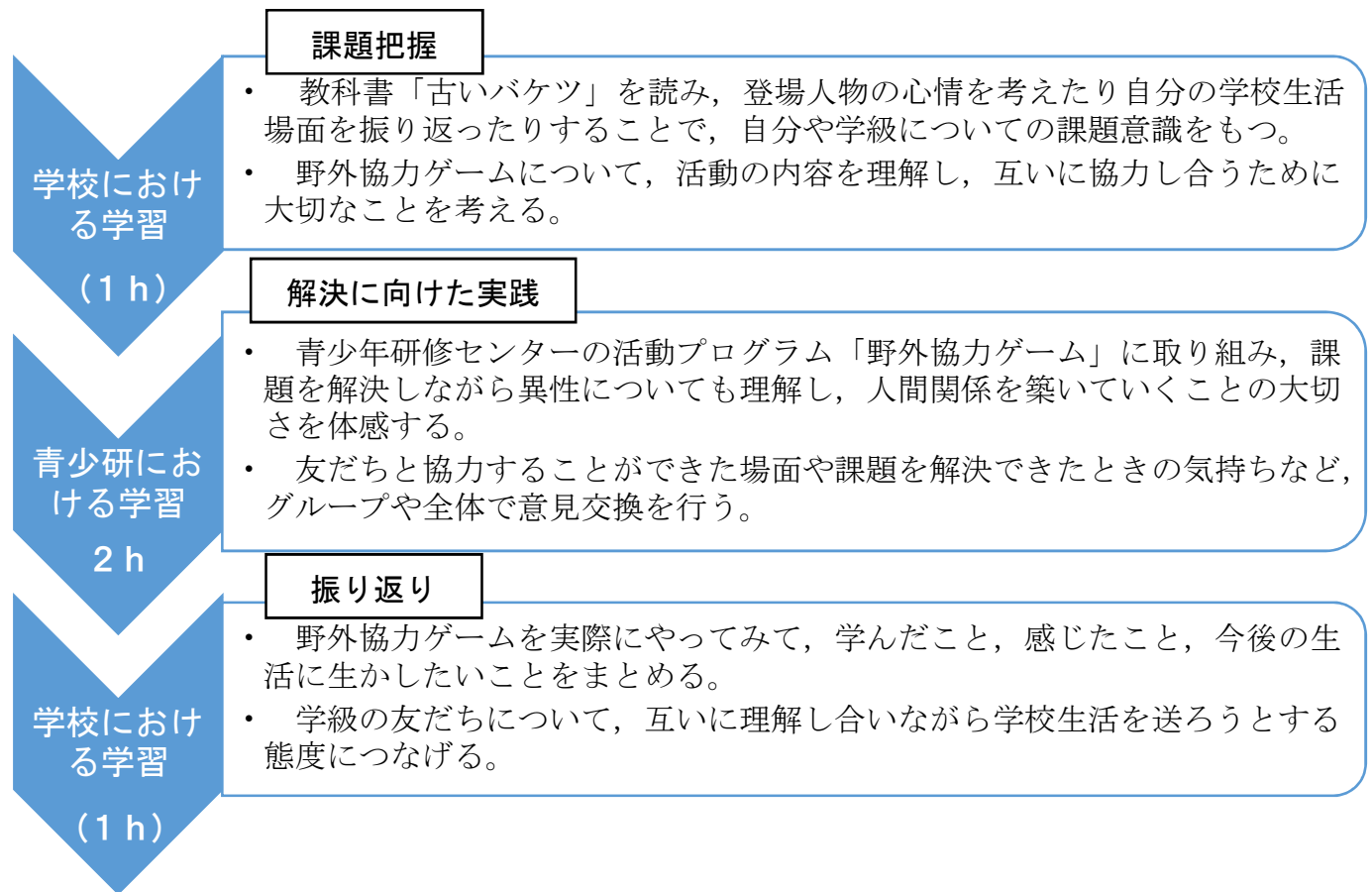
### (3) 評価規準

- ・ 食の安全や衛生，食事のありがたさについて理解しようとしている。また，安全に炊事道具を使用している。(知識及び技能，安全)
- ・ 野外での効率的な炊事について考え，役割分担を行っている。また，野外での効率的な炊事を実践しようとしている。(思考力・判断力・表現力等)
- ・ 野外炊事に興味をもち，今後の生活に生かそうとしている。(学びに向かう力，人間性等)

## 相互理解，寛容（協力することの大切さ）

### 概要版

- 学 年 ・ 教 科 小学5年 特別の教科 道徳（2時間）「古いバケツ」  
（指導内容B主として人との関わりに関すること「相互理解，寛容」）
- ね ら い
  - ・ 友だちを正しく理解し，ともに活動することの喜びに気付き，進んで協力し，助け合おうとする態度を養う。
  - ・ 友だち同士で互いに協力して学び合う活動を通して，お互いのよさを認め，支え合おうとする態度を養う。
- 活動プログラム 野外協力ゲーム（雨天時：室内運動会）
- 単元計画（例）



- 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

#### 知識及び技能，安全

- 課題を解決するためには，友だちを理解し，力を合わせて協力したり，友だちの考えを尊重したりしながら，安全に課題を解決することができる。

#### 思考力・判断力・表現力等

- 課題を達成するために，各施設の条件やグループのメンバーの状況をふまえ，グループ内で主体的に考え，解決方法を選択することができる。

#### 学びに向かう力，人間性等

- 各施設の課題にグループ内で協力して取り組み，多様な意見を尊重し，自己の役割や責任を果たそうとしたり，よりよい人間関係を築こうとしたりすることができる。

## 指導案

### 1 単元名

「相互理解，寛容（協力することの大切さ）」

- 学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 の「第1 目標」  
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。 ※（ ）は中学校

#### <学習活動>

- ① 道徳的諸価値についての理解
- ② 自己を見つめる
- ③ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
- ④ 自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める



#### <道徳性>

- 道徳的判断力
- 道徳的心情
- 道徳的実践意欲
- 道徳的態度

①～④の学習活動を通して，道徳性を育てる

- 小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳  
第2 内容  
B 主として人との関わりに関すること  
[相互理解，寛容]  
〔第5学年及び第6学年〕  
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心を持ち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
- 中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳  
第2 内容  
B 主として人との関わりに関すること  
[相互理解，寛容]  
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高めていくこと。

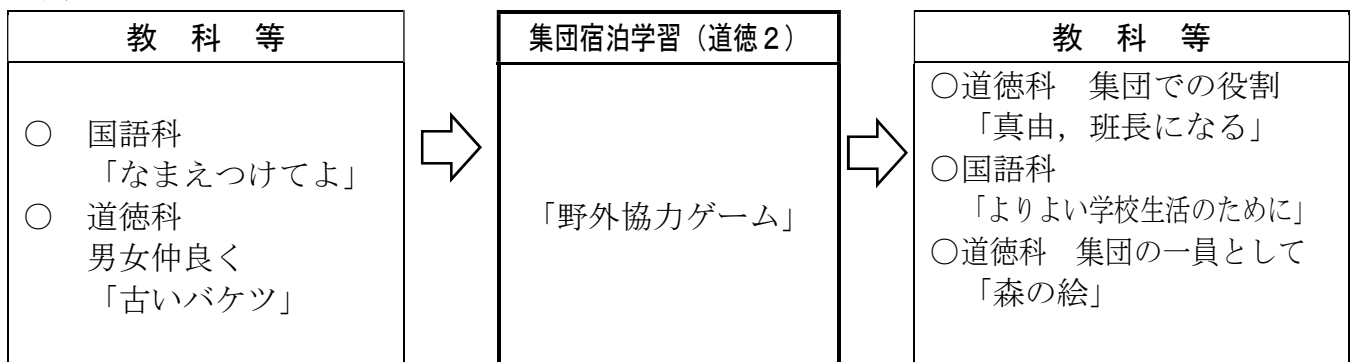
### 2 単元について

#### (1) 単元計画（例）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】 問題の意識化	【特別の教科 道徳】 ・ 課題について知り，どのようにすれば解決できるか，また目標を達成できるかを話し合い，合意形成のもと，試みる方法を見つけ出す。	(1)	学校

<p><b>【野外協力ゲームの実際】</b> 活動の実際</p>	<p><b>【特別の教科 道徳（1時間）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動のはじめに，個人及びグループの目標を確認する。</li> <li>・ 野外協力ゲームの活動を始める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 事前にグループで決めた取組み方法を試みる。</li> <li>② 試みた結果を受けて，グループで話し合い，よりよい方法を模索し，合意形成のもと1つの方法に絞り込む（レベルアップ（リベンジ，チャレンジ）タイム）。</li> <li>③ ②で決めた方法を試みる。</li> <li>④ ③の結果について，グループで意見交換する。</li> </ul> </li> <li>・ 活動の終わりに，全体を振り返り，それぞれの思いや考えを共有する。</li> </ul>	1	センター
<p><b>【事後学習】</b> 振り返り</p>	<p><b>【特別の教科 道徳】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動前に立てた個人及びグループの目標について振り返りながらワークシートにまとめる。</li> <li>・ 活動を通して気付いたことをワークシートに記入する。 (例：新たな発見，他人の良かったところ，生活に生かせること 等)</li> <li>・ それぞれの思いを共有する。</li> <li>・ これからの学校生活の中で，生かせることはないか考え，実践に繋げていく。</li> </ul>	1	センター

(2) 全体計画との関連



### (3) 集団宿泊学習として取扱う利点

本センターにおける集団宿泊学習やその中の野外体験活動は、仲間とのつながりや自分自身を見直すよい機会となっている。子ども自身が、多様な意見を受け止め、お互いを認め合う学級や学年の雰囲気醸成に役立つ。その結果、子どもは感じたことや考えたことをより主体的に表現し、友だちのことを理解したり、協力し合うことよさや大切さについての考えを深めたりしていくことができるようになる。また、事前学習で道徳的価値の実践力や事後の学習によって、他の道徳的価値についても気付きやすくなり、今後の生活に生かすことができる。

### (4) 主体的で対話的な深い学びの視点

#### ア 主体的な学び

##### (7) 目指す子どもの姿

課題を達成するために話し合う中で、道徳的価値に関する友だちの考えに共感し、自らを振り返り、課題や目標を見付けようとする。

##### (イ) 指導のポイント

自分の考えを表現することを苦手とする子どもには、「あなたはどう思う？」等の問いかけを行い、発言しやすい状況をつくる。

#### イ 対話的な学び

##### (7) 目指す子どもの姿

各施設の条件やメンバーの状況を踏まえ、課題を解決するための方法をグループ内で合意形成を図る中で、自己の生き方について考えを深めようとする。

##### (イ) 指導のポイント

多様な感じ方や考え方を引き出すために、子どもの緊張を緩和させ、友だちの考えを聞くときに、頷きを入れ、もう少し聞いてみたいことを積極的に問うように助言する。

#### ウ 深い学び

##### (7) 目指す子どもの姿

グループ内の心情理解のみにとどまらず、課題を自分のこととして捉え、議論し、探究する過程を重視し、道徳的価値に関わる自分の考え方、感じ方をより深めようとする。

##### (イ) 指導のポイント

様々なアイディアを試すときに、しっかりと他の意見を聞き、その意見を踏まえて自分の考えを述べるように促す。

### 3 活動プログラムの目標・評価の着眼点

野外協力ゲーム（室内運動会）の課題を解決する活動を通して、友だちについて理解しながら、人間関係を構築していくことの大切さや、自分と異なる意見や立場を尊重する態度を養う。また、課題から解決の方法や約束について話し合い、合意形成を図り、自分の役割を意識しながら活動できるようにする。（「物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める」学習活動）

評価の着眼点	目 標	期待する具体的な学習状況 (※評価規準に相当)
道徳的価値 の理解を自分 自身との関わり の中で深めて いるか	<p>&lt;小学校&gt;</p> <p>野外協力ゲームの課題を解決していく中で、友だちのことを理解し、他の人の意見を尊重しながら、各施設の条件やグループのメンバーの状況をふまえ、主体的に自分の考えや意見をグループのメンバーに伝える。</p> <p>&lt;中学校&gt;</p> <p>野外協力ゲームの課題を解決していく中で、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重する。</p>	<p>課題を自分のこととして捉え、他人の意見を尊重しながら、自分の意見を客観的に吟味し、主体的に課題を解決しようとする姿勢で発言しているか。</p> <p>(道徳ノート、発言、ワークシート)</p>
一面的な見 方から多面 的・多角的な 見方へと発展 させているか	<p>&lt;小学校&gt;</p> <p>野外協力ゲームの課題を解決していく中で、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する。</p> <p>&lt;中学校&gt;</p> <p>野外協力ゲームの課題を解決していく中で、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく。</p>	<p>課題解決のための様々な意見を尊重しながら、考えたり話し合ったりしながら積極的に合意形成を図ろうとしているか。</p> <p>(道徳ノート、発言、ワークシート)</p>

#### 4 青少年研修センターでの展開 [特別な教科 道徳 2時間]

##### (1) ねらい

野外協力ゲームを通して、友だちのことを理解し、共に活動することの喜びに気づき、進んで協力し、助け合おうとする態度や、友だち同士で互いに協力して学び合う活動を通して、お互いのよさを認め、支え合っていこうとする態度を養う。(B相互理解, 寛容頼)

### 野外協力ゲームAコース

7人から10人のグループの全メンバーが、知恵を出し合い、作業を立  
て、協力して課題を解決できるように取り組む活動です。様々な野外  
教育の団体が取り組んでいるグループワークトレーニング(集団の力  
を高める練習)の野外版です。

活動のねらい

- メンバーの協調性を育む。
- 個人・集団の創造性を育む。
- 体力の増進を図り、互励心を養う。

対象：小学5年生～高校生  
内容：Aコース…10種類、Bコース…10種類  
時間：約1.5時間

団体名 (FD)	出 席 者 名	人 数 男 女	名
河津屋の研修の理由や感想をグループで話し合ってください。 到達度…○ 成功 △ 途中まで × 不成功			
活動名	種別	対象年齢	意 義
やじろペー			
知恵の竹ざお			
思考の塔			
はしげ(A)			
つなわたり(A)			
日本列島			
縄のぼり			
一本橋(A)			
ブラックホール(A)			
UFO(A)			

◆ やじろペー

全員でバランスをとる。

※次のことを守る。

- 5秒以上バランスを失つ。
- またいで、離れる。



◆ 日本列島

全員でせまい土地(竹)の上に集る。

※次のことを守る。

- 必ず全員が集る。
- 10秒以上全員で集える。



◆ 知恵の竹ざお (A) 難易度高

全員がロープの上を踏えわく外に出る。

※次のことを守る。

- 踏えたる人や竹竿はロープにふれない。
- わく外に出た人は外からしか協力できない。
- 立木を利用しない。



◆ 縄のぼり 難易度高

全員が綱を渡る。

※次のことを守る。

- 綱の両側にある柱は使わない。



◆ 思考の塔

柱のタイヤを取り出し、また入れ込む。

※次のことを守る。

- 取り出したタイヤを全部取り出す。
- 取り出したタイヤを全部入れ込む。
- タイヤを投げてはいけない。



◆ 一本橋 (A)

二組に分かれ、橋の両側から同時に渡り始め、途中  
で交差して、反対側へ帰る。

※次のことを守る。

- 一人でも落ちたら、始めからやり直す。



◆ はしげ (A)

ロープを握り、前方のはしげに全員とび移る。

※次のことを守る。

- とび移った人は、自からしか協力できない。
- はしげ(台)から一人でも落ちたら全員やり直す。



◆ ブラックホール (A)

軍手をつけて、ボードを握って、ボールをバケツ  
に入れる。(一人はボールを  
ボールはすべての皿をたどってから  
バケツに入れる。  
※次のことを守る。

- ボールを平で触れない。
- ボードは両側しか持てない。



◆ つなわたり (A)

お互いに支えながら、ロープを渡る。

※次のことを守る。

- 地上から協力できない。
- 途中で落ちたら、始めからやり直す。



◆ UFO (A)

輪(リング)を、みんなの指で支え、柱の高さか  
ら地面に降ろす。

※次のことを守る。

- 全員が指先(第一関節あたり)で支える。
- 一人でも指が離れたら、やり直す。



【野外協力ゲームAコースのワークシート】

活動・場所	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
【事前学習】 学校	<p>1 友情に関するアンケートの結果を提示し、本時のめあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">友情について考えよう。</div> <p>2 「相手を理解しようとする」「相手を理解する大切さ」に気付く。</p> <p>3 友情を考える上で大切なことは、「自分も友だちも、長所も短所もある。互いに補い合って、助け合っている関係」であることを理解する。</p> <p>4 野外協力ゲームの内容について理解し、目的を達成するために必要なことを話し合う。</p>	<p>&lt;補助資料&gt;「古いバケツ」</p> <p>1 アンケートの結果を提示することを通して、児童の興味・関心を高め、「相互理解, 寛容」の道徳的価値への動機付けを図る。</p> <p>2 重たいバケツを率先して運ぶ紀幸の行動から、「思いやりの心」を感じ取ることで、仲間づくりの関係の架け橋となったことに気付かせる。また、相手を理解するためには「対話」が必要であることに気付かせる。</p> <p>3 他者に対する負の思い込みに気付かせることで、みんな長所も短所もあって、互いに補い合って、助け合っている関係であることを理解させる。</p> <p>4 集団で課題を達成するためには、信頼関係を構築することが大切であることに気付かせることで、そのためには対話が大切であることに気付かせる。</p>	道徳 (1)
【野外協力ゲーム】 センター	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;打合せの実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に担当職員と団体引率者で、引率者の配置や注意事項、連絡体制等について確認を行う。</li> </ul> </div> <p>1 健康観察, 安全指導を行う。</p> <p>2 前時の学習を振り返り, 活動のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">野外協力ゲームをみんなで協力してクリアしよう。</div>	<p>1 健康観察, 安全指導を最初に行うことで, 安全性の確保の重要性を理解させる。</p> <p>2 前時の学習を振り返らせることで, 対話の大切さを改めて意識させる。</p>	

<p>【野外協力ゲーム】 センター</p>	<p>3 活動の説明を聞く。</p> <p>(1) ゲームについての説明 (2) 注意事項 ・ 安全面、グループ活動、活動終了時刻等 (3) グループの話合い</p>	<p>3 活動の説明を聞くことを通して、野外協力ゲームの内容や注意事項について理解させる。さらにグループで話し合わせることで、グループ内で情報を共有し、意欲を高めさせる。また、安全に課題を解決するためには、グループでの協力が不可欠であることに気付かせる。</p>	<p>道徳 2</p>
	<p>※ 一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する。特に担任は、すべてのグループの活動を観察できるように配置する。〈行動観察〉 ※ 複数の指導者で学習状況を把握するために、活動終了後、情報交換の時間を設定する。</p>		
	<p>4 野外協力ゲームを行う。</p>	<p>4 野外協力ゲームを行うことで、課題を解決するためには協力が必要であることを実感させる。そのために、対話することが重要であることを理解させる。</p>	
<p>※ 一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する。特に担任は、すべてのグループの活動を観察できるように配置する。〈行動観察〉 ※ 複数の指導者で学習状況を把握するために、活動終了後、情報交換の時間を設定する。</p>			
<p>5 野外協力ゲームを振り返り、各自で感じたことをまとめ、またグループ内で意見や感想を述べ合い、共有する。</p> <p>6 全体で感想発表を行う。</p>	<p>5 個人やグループで振り返ることで、協力することや対話することの大切さを実感させる。</p> <p>6 全体で感想等を共有することで、実生活で生かせそうな場面について考えさせるとともに、進んで協力し、助け合おうとする態度やお互いのよさを認め、支え合っていこうとすることの大切さや多面的・多角的な見方に気付かせる。</p>		
<p>7 担当職員のとまとめを聞く。</p>	<p>7 グループで協力し合うことができた様子や積極的な対話を紹介したまとめを聞くことを通して、これからの学校生活で実践しようとする意識付けを行う。</p>		



<p><b>【事後学習】</b> 学校</p>	<p>※ 学校職員はグループの振り返りの際、グループ内での発言やつぶやきに注目し、児童の学習状況把握に努める。</p>	<p>学級活動 (1)</p>
<p>1 前時のまとめを振り返り、個人内で別な視点で感想や意見がないか考える。</p> <p>2 学校生活で今日学んだことを具体的に生かせる場を考え、その情報を全体で共有する。</p>	<p>1 全体の道徳的価値を個人内にフィードバックさせることで、自分自身との関わりの中で深めさせる。</p> <p>2 学校生活で今日学んだことを具体的に生かせる場を考えさせることで、多面的・多角的な見方に発展させる。</p>	
<p>※ 自己評価や相互評価を実施し、自分のよい点に気付くことを通じて、意欲を高めたり、学び方を改善したりする。 (集団宿泊学習等のしおりにおけるワークシート等)</p>		

### (3) 評価の観点

- 道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子  
課題を自分のこととして捉え、他人の意見を尊重しながら、自分の意見を客観的に吟味し、主体的に課題を解決しようとする姿勢で発言している。(活動観察)
- 物事を多面的・多角的に考えている様子  
課題解決のための様々な意見を尊重しながら考えたり思いを伝えたりしながら、積極的に合意形成を図ろうとしている。(活動観察, 感想記述)

## わたしたちの生活と森林

### 概要版

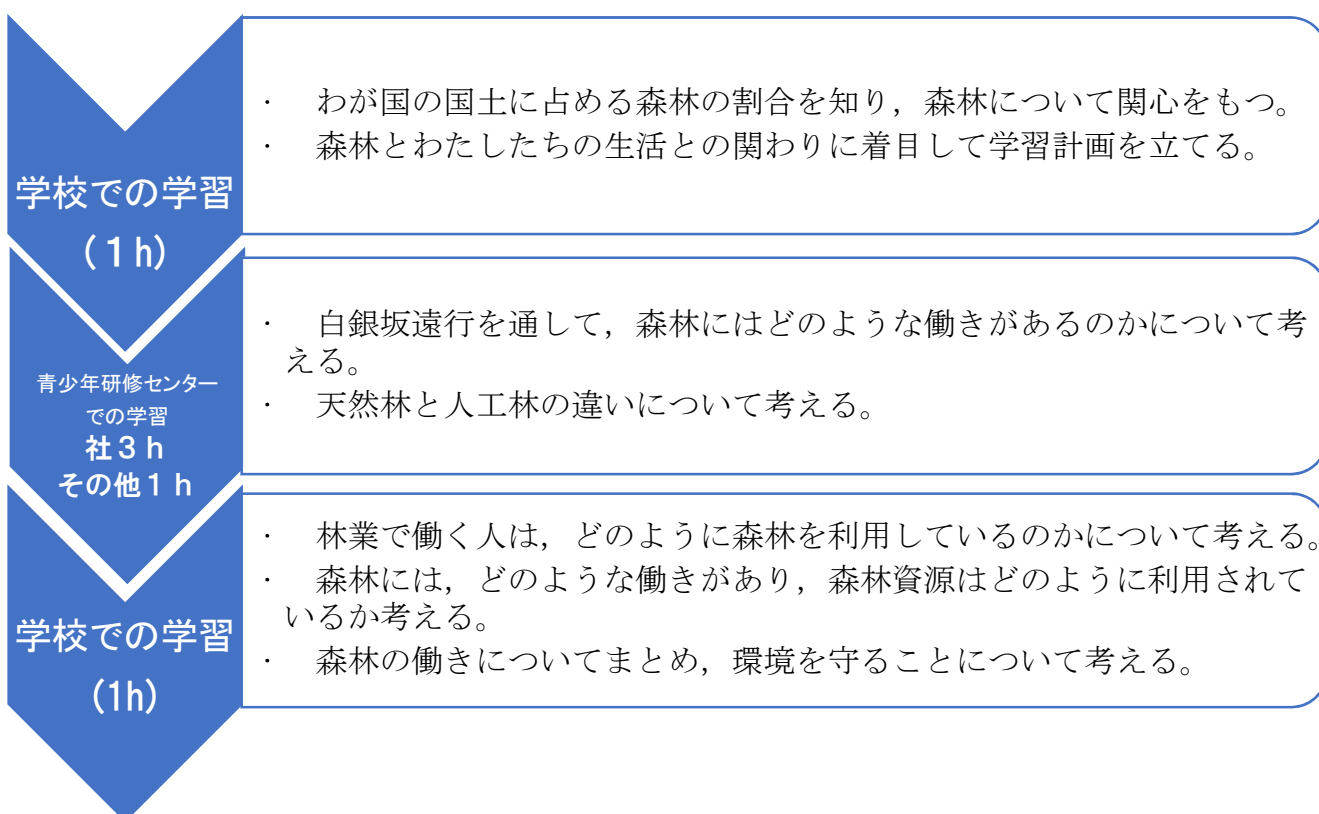
○ 学年・教科 小学5年 社会科（3時間）

○ 単元目標

わが国の国土の自然環境について、森林資源の分布や働きに着目して、森林資源が果たす役割を考える。森林は、その育成や保護に従事している人々のさまざまな工夫と努力により国土の保全と重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、国土の環境保全について、自分たちにできることを考えさせようとする態度を養う。

○ 活動プログラム 白銀坂遠行（重富発）

○ 単元計画（例）



○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

#### 知識及び技能、安全

- 白銀坂の自然について学び、自他の安全に気を付けて遠行ができるようにする。  
また、自然の豊かさや木々の特徴、天然林と人工林について理解する。

#### 思考力・判断力・表現力等

- 白銀坂遠行を通して、錦江湾を眺望したり、緑豊かな森を観察したりすることで、森林のさまざまな働きについて考えることができる。

#### 学びに向かう力、人間性等

- 白銀坂遠行を通して、森林保全の重要性や自然保護のために自分たちにできることを考える。
- 森林のさまざまな働きについてまとめ、環境保全について考える。

## 指導案

### 1 単元名 「わたしたちの生活と森林」

- 学習指導要領 社会科 第5学年 (内容の取扱い)
- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を迫及・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (イ) 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。
- (エ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (イ) 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。

### 2 単元について

#### (1) 単元計画 (例)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】	(1) 日本の森林はどのようになっているか考える。 (2) 森林とわたしたちの生活の関わりをもとに学習課題を考え、学習計画を立てる。 ・ 青少年研修センターでの活動（白銀坂周辺）について確認する。	社会  (1)	学校
【活動の実際】	～青少年研修センターのプログラム～ (3) 白銀坂周辺の森林にはどのような働きがあるか考える。 ・ 実際に白銀坂を歩き、森林のよさを感じる。 ・ 森林資源としての白銀坂周辺の森の働きについて考える。 (4) 天然林と人工林の違いについて考える。	社会 3 その他 1	白銀坂
【事後学習】 〈まとめ〉	(5) 林業で働く人は、どのように森林を利用しているか話し合う。 (6) 森林の働きについてまとめ、環境を守ることについて考える。 (7) 自分の生活を振り返り、森林保全のためにできることを考える。	社会  (1)	学校

#### (2) 集団宿泊学習として取り扱う利点

学校内にある樹木のほとんどは人工林であることが多い。実際に天然林を見るためには校外へ行くことになり時数を費やすことになる。そこで、本センターのプログラムである白銀坂遠行を実施することで、森林の働きと自分たちの生活との関わりや天然林と人工林の違いを直接学ぶことができる。

また、森林を流れる小川を実際に観察したり、鳥のさえずりを聞いたりすることで、森林や水の流れる周辺は、数多くの生物が生息する環境であることを感じるができる。

さらに、画像や動画を撮影することで振り返りやまとめ学習に生かすこともできる。

### (3) 主体的で対話的な深い学び

#### ア 主体的な学び

##### (7) 目指す子どもの姿

白銀坂遠行を通して、森の豊かさがもたらす働きについて自ら考えることができる。

##### (1) 指導のポイント

森林の働きや自分たちの生活との関わりについて考えさせる。

#### イ 対話的な学び

##### (7) 目指す子どもの姿

白銀坂遠行を通して、森林の働きについて気付いたことをお互いに出し合う。

##### (1) 指導のポイント

白銀坂遠行を通して、森林の働きや森林保全、自分たちの生活との関わりについて気付いたことを振り返らせる。

#### ウ 深い学び

##### (7) 目指す子どもの姿

森林を育成・保護することの大切さについて、自分たちの生活と関連付けて考える。

##### (1) 指導のポイント

普段の生活を振り返らせ、森林保全のためにできることを考えさせる。

### 3 活動プログラムの目標・評価規準

育成する資質・能力	目 標	評価規準
知識及び技能, 安全	白銀坂の自然について学び、自他の安全に気を付けて遠行しながら、自然の豊かさや木々の特徴、天然林と人工林について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>白銀坂の自然について学び、自他の安全に気を付けながら遠行する。</li> <li>遠行を行う中で、自然の豊かさや木々の特徴、天然林と人工林の違いを理解しようとしている。</li> </ul>
思考力・判断力 表現力等	白銀坂遠行を通して、錦江湾を眺望したり、緑豊かな森を観察したりすることで、森林のさまざまな働きについて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>白銀坂遠行を通して、森林と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。</li> </ul>
学びに向かう力, 人間性等	白銀坂遠行を通して、森林保全のために自分たちにできることを考える。 森林のさまざまな働きについてまとめ、環境保全について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>白銀坂遠行を通して、森林保全のために自分たちにできることを考えようとしている。</li> <li>森林のはたらきについてまとめ、環境を守ることについて考えようとしている。</li> </ul>

4 青少年研修センターでの展開 [社会科 3時間]

(1) ねらい

白銀坂遠行を通して、白銀坂周辺の森林資源としての働きや自分たちの生活との関わりについて考える。

(2) 展開

活動・場所	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
<p>登山口 (重富)</p>	<p>1 本時の学習の流れをつかむ。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠行前に体調確認をする。</li> <li>・ 白銀坂遠行をする際の注意点を再確認する。</li> </ul> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     白銀坂周辺の森林を観察し、森林の働きについて考えよう。                 </div> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校で事前学習してきたこと再確認する。</li> <li>○ 本時のめあてを確認させる。</li> </ul>	<p>10分</p>
<p>白銀坂</p>	<p>3 白銀坂遠行での注意点について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 歩く順番を守りながら歩く。                      ア ペースを守る(自分だけのペースではない)。                      イ 前の人を抜かない。                      ウ 仲間で励まし合う。</p> <p>(2) 水分補給, 休憩を確実にとる。                      (3) はじめはゆっくり歩きながら, 体を慣らす。</p> </div> <p>4 白銀坂遠行を通して, 森林の働きを学ぶ。</p> <p>(1) 重富干潟眺望所                      ア 森に蓄えられた水が海へと流れている。                      イ その水には栄養分が含まれ, 豊かな海がつけられている。</p> <p>(2) 登山道の脇に流れる小川                      ア 山肌から流れ出る水分が小川になり, 海へ流れている。                      イ 落ち葉の養分を含んでいる。                      ウ 川の周辺には様々な生物が集まる。(動物が生きるために大切な場所)</p> <p>(3) 小川周辺の森林について                      ア 多く茂る原生林                      イ さまざまな樹木(クス)</p> <p>(4) さくら見晴台                      ア 頂上から見える桜島                      イ 大隅半島の山々                      ウ 錦江湾(カルデラ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山に何年も蓄えられた水は, 川から海へと流れていることに気付かせる。</li> <li>・ 栄養分を多く含んだ水は海の生物のえさになることを学ばせる。</li> <li>・ 小川周辺には多くの生物が集まることを学ばせる。</li> <li>・ 危険な生物(マムシ等)がいることもふれる。</li> <li>・ 川のせせらぎや小鳥のさえずりを聞かせる。</li> <li>・ 大隅半島や桜島を確認させ, カルデラについて学ばせる。</li> <li>・ 天然林と人工林の違い</li> </ul>	<p>215分</p>

	<p>(5) 天然林と人工林の比較  ア 天然林と人工林の働きについて  イ 間伐が必要な理由</p> <p>5 島津ゴルフ場登山口到着  (1) 人数・けが等の確認  (2) 水分補給</p> <p>6 青少年研修センターへ移動  (1) 車への注意  (2) 水分補給</p> <p>7 青少年研修センター到着  (1) 人数・けが等の確認  (2) 水分補給</p>	<p>いについて話し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>天然林は多くの水を蓄え、根を張り、斜面を崩れにくくしていることを学ばせる。</li> <li>森を豊かにするためには間伐が必要であることを学ばせる。</li> <li>けが人、体調不良者等の確認をする。</li> <li>水分補給をさせる。</li> <li>車道を通るので車に気を付けさせる。</li> <li>途中で休憩を入れ、水分補給をさせる。</li> <li>青少年研修センターに到着後、体調面の確認をする。</li> </ul>	
<p>まとめ</p>	<p>8 活動の振り返りを行う。</p> <p>(1) 気付いたことをワークシートに記入する。</p> <p>(2) まとめたことを発表し、学習全体を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林の働きや森林保全について記入させる。</li> <li>全体で発表させ、自分たちにできることを考えさせる。</li> </ul>	<p>15分</p>

### (3) 評価規準

- 白銀坂の自然について学び、自他の安全に気を付けて遠行することができる。  
(知識及び技能, 安全)
- 白銀坂遠行を行う中で、自然の豊かさや木々の特徴、天然林と人工林の違いに気付くことができる。(知識及び技能, 安全)
- 白銀坂遠行を通して、森林と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 白銀坂遠行を通して、森林保全の重要性や自然保護のために自分たちができることを考えることができる。(学びに向かう力, 人間性等)
- 森林の働きについてまとめ、環境を守ることにについて考えることができる。  
(学びに向かう力, 人間性等)

# わたしたちの生活と森林 ワークシート

名前( )

◎ 白銀坂遠行で気付いたことや思ったことを書きましょう。

## 1 森林の働きについて

① 森林と水(川や海)とのかかわり

② 森林と生き物(動物や植物)とのかかわり

## 2 天然林の人工林のちがいについて

どんなちがいがあるでしょうか?気付いたことを書きましょう。

3 白銀坂周辺のように豊かな森林を守るために、自分たちにどんなことができるか考えてみましょう。

## 糸のこの寄り道散歩

### 概要版

○ 学年・教科 小学5年 図画工作科（3時間）

○ 単元目標

曲線切りした板の形や色の組み合わせ方を試したり、見付けたりして、創造的に発想する力や構想する力を培う。

○ 活動プログラム ベニヤパズル

○ 単元計画（例）

学校における  
学習  
(1h)

- ・ ベニヤパズルについて理解する。
- ・ 学校で事前にパズルの下絵を考え、用紙に描いてくる。

青少研における  
学習  
3h

- ・ 学校で準備してきた下絵にカーボン紙を敷き、下絵を鉛筆でなぞりベニヤに下絵を写す。
- ・ 板を電動糸のこで切る。
- ・ 複雑な線にしないように気を付けてパズルになる部分を描く。（5～8個程度のピースにするのがよい）
- ・ 切り取ったパズルを絵の具で色塗りをし、スプレーニスをかける。
- ・ お互いの作品の鑑賞会を行い、友だちの作品のよさやおもしろさを話し合う。

○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

#### 知識及び技能、安全

- 形や色の組み合わせを表したいデザインに関連づけながら技能を働かせ、工夫して作り上げるとともに、電動糸のこの安全な使い方に気を付け、活動することができる。

#### 思考力・判断力・表現力等

- 下絵、パズルの形、色合いなどの段階からできあがり进行を想像し、工夫して表現することができる。

#### 学びに向かう力、人間性等

- 友だちと自分の作品の特徴について進んで話し合い、よさや面白さについて深く認め合うことができる。
- 素朴な素材であるベニヤ板からパズルを作る活動を通して、創作活動の楽しさや素晴らしさを味わうことができる。



## 指導案

### 1 単元名 「糸のこの寄り道散歩」

○ 学習指導要領 図画工作 第5学年の内容とのかかわり

#### A 表現

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。

#### B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

#### [共通事項]

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

### 2 単元について

#### (1) 単元計画（例）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
発想及び構想	(1) 学習課題をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ベニヤ板に絵を描き、安全に気を付け、電動糸のこを上手に使うってパズルを作ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 宿泊学習で青少年研修センターの電動糸のこを使って、学習することを知る。</li><li>○ 学校ですることと宿泊学習ですることを確認する。</li></ul> (2) パズルにする絵を考える。 <ul style="list-style-type: none"><li>○ 大きく、簡単な絵にする。</li></ul>	(1)	学校

<p>活動の実際</p>	<p style="text-align: center;">～青少年研修センターでの活動～</p> <p>(3) 青少年研修センターでの活動内容の注意点を聞く。</p> <p>(4) 考えた絵を用紙に書き，カーボン紙を使ってベニヤ板に写し，ペンで線をなぞる。</p> <p>(5) ピースにする線を鉛筆で描く。 ○ ピースの数は5～8個ぐらいにして，複雑な線にしないように確認する。 ○ 電動糸のこの使い方や注意点を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1 電動糸のこの使い方(替え刃の付け方等)を確認する。 2 両手で板を押さえながら切る。 3 あわてず，ゆっくりと切る。(危機回避) 4 友だちと協力しながら作る。 5 各グループで分かれて交代で使う。</p> </div> <p>(6) 実際に電動糸のこを使い，切る作業を行う。</p> <p>(7) 紙やすりをかける。 ○ 切った後のささくれがないようにやすりをかける。</p> <p>(8) 絵の具で色を着け，ニスをかける。 ○ 水を多く使わずに，濃く塗る。 ○ スプレーニスをかける。</p> <p>※ 完成できなかつた児童は学校で続きを行う。</p> <p>(9) ワークシートに活動の反省を記入する。</p>	3	青少年研修センター
<p>鑑賞</p>	<p>(10) お互いの作品の鑑賞会を行う。 ○ 自分の作品の気に入っているところや，工夫したところを発表する。 ○ 友だちの作品のパズルで遊んでみる。 ○ 友だちに作品のいいところを見付け，伝える。</p>	(1)	学校

## (2) 集団宿泊学習として取り扱う利点

学校が保有する電動糸のこの台数は意外と少ない。そのため，子どもたちが活動（板の切断）する際に順番を待つ時間が多くなる。しかし，青少年研修センターには電動糸のこが11台あり，センター職員の支援も得ながら11人の児童が一斉に活動（板の切断）できる利点がある。

また，青少年活動センターの活動プログラム（文化創作活動）として取り入れると本センターですべて用意することができるので教材準備の必要がなくなるという利点がある。さらに，センターでの滞在時間を利用することで制作後すぐの作品で鑑賞や評価ができる。

## (3) 主体的で対話的な深い学び

### ア 主体的な学び

#### (7) 目指す子どもの姿

自分が制作したパズルに取り組む友だちの姿を想像し，絵やピースを切断する曲

線をどう表現するか考えながら、電動糸のこを安全に操作し、パズルを制作する。

(1) 指導のポイント

パズルは、ピースを組み合わせてもとの絵にもどす遊びであること、また、それに取り組む友だちがいることを意識させ、難易度を工夫して、安全に遊べるようにさせる。

イ 対話的な学び

(7) 目指す子どもの姿

パズルの下絵やピースを切断する曲線について意見交換し、友だちの作品や自分自身の作品をよりよくしようとする姿を目指す。

(1) 指導のポイント

制作の途中で作品の美しさや楽しみ方の視点をもたせた意見交換の場を設定し、会話やメモで相手に伝えさせる。

ウ 深い学び

(7) 目指す子どもの姿

自分や友だちがつくったパズルで遊びながら、お互いの作品のよさ（工夫した点や美しい点など）を認める。

(1) 指導のポイント

鑑賞会でパズルを見せ合い、実際にパズルで遊ばせることで、よさ（工夫した点や美しさなど）を実感させる。また、作品票やワークシートを活用し、称賛できる場を設定する。

### 3 活動プログラムの目標・評価規準

育成する資質・能力	目 標	評価規準
知識及び技能, 安全	できあがりイメージしたパズルの形や色など表したい意図に関連付けながら技能を働かせ、工夫して作品を仕上げることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動糸のこの特性を生かし、板の曲線切りを楽しむことができる。</li> </ul>
思考力・判断力 表現力等	曲線切りによって生まれる形を組み合わせ、できあがる絵を考え、自分らしい発想を広げることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色を考え、曲線切りをうまく生かし、作品イメージに関連付けながら、表現することができる。</li> </ul>
学びに向かう力, 人間性等	友だちと自分の作品の表現の意図や特徴について話し合い、よさやおもしろさを互いに認め合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと自分の作品の特徴について話し合い、よさやおもしろさを認め合うことができる。</li> </ul>

#### 4 青少年研修センターでの展開 [図画工作科 3時間]

##### (1) ねらい

児童にベニヤ板からパズルを作る活動を通して、ベニヤ板の特性や電動糸のこの正しい使い方を理解させ、完成作品のイメージをふくらませる。

また、互いの作品のよさや美しさ、面白さや楽しさに気付かせ、交流することができるようにする。

##### (2) 展開

学習の流れ	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
学習課題をつかむ	<p>(1) 本時の学習の流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 描いてきた絵をカーボン紙でベニヤ板に写す。</li> <li>・ パズルのピースを鉛筆で書く。</li> <li>・ 電動糸のこでピースに分ける。</li> <li>・ 色を塗る。</li> <li>・ スプレーニスをかける。</li> </ul> <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>電動糸のこを使い、曲がった線を上手に切るにはどうすればよいか考えよう。</p> </div> <p>(3) 一度職員が手本を見せ、どんなところに注意しているか考えさせる。</p> <p>※ 予想される児童の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無理に押さない。</li> <li>・ 両手で板を押さえている。</li> <li>・ 姿勢がよい。</li> </ul> <p>(4) 注意点を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 糸のこの付け方等を確認する。</li> <li>2 ベニヤ板を両手でよく支えて切る。</li> <li>3 前に強く押しすぎない。</li> <li>4 あわてず、ゆっくりと切る。(木くず, 電源)</li> <li>5 友だちと協力しながら作る。</li> <li>6 各グループで分かれて交代で使う。</li> </ol> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の流れをつかませる。</li> <li>○ どんな絵を描いてきたか児童に発表させる。</li> <li>○ ピースの数が多すぎないか確認させる。</li> <li>○ 本時のめあてを確認させる。</li> </ul> <p>※ 電動糸のこ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全に切断しているか声かけを行う。</li> <li>○ 手本を見て、気付いたことをできるだけ出させ、説明につなげていく。</li> </ul>	20分

<p><b>実際の活動</b></p>	<p>(5) 電動糸のこで切る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>注意点に気をつけながら活動に取り組む。</li> <li>2～3個切ったら、次の人と交代する。</li> </ul> </p> <p>(6) 紙やすりをかける。  <ul style="list-style-type: none"> <li>電動糸のこを待っている間は、切り取ったピースのやすりがけを行う。</li> </ul> </p> <p>(7) 絵の具で色を塗り、ニスをかける。  <ul style="list-style-type: none"> <li>全てのピースができあがってから、色塗り・ニスかけをする。</li> </ul> </p>	<p>○ 安全に活動できているか周囲に気を配る。</p> <p>○ 上手に切断できている児童を称賛する。</p> <p>※ 紙やすり1枚</p> <p>○ ささくれをとる程度にやすりをかけるように声かけをする。</p> <p>※ 絵の具セット</p> <p>○ パレットの色が混ざらないように気をつけさせる。</p> <p>○ 少量の水で濃く色塗りをしよう声かけをする。</p> <p>※ スプレーニス</p> <p>○ 換気に気を付け、ニスをかける。</p>	<p>100分</p>
<p><b>まとめ</b></p>	<p>(8) 使った物や周囲の片付けをする。  <ul style="list-style-type: none"> <li>電動糸のこの周囲、絵の具等の片付けを分担する。</li> </ul> </p> <p>(9) ワークシートに感想を記入する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の反省ばかりでなく、友だちのよさも書かせるようにする。</li> </ul> </p>	<p>○ 作業の分担を事前に決めておく。</p> <p>※ ワークシート</p>	<p>15分</p>

### (3) 評価規準

- ・ 電動糸のこの特性を生かし、板の曲線切りを楽しんでいる。(知識及び技能, 安全)
- ・ 形や色を考え、曲線切りをうまく生かし、作品イメージに関連付けながら、表現している。(思考力・判断力・表現力等)
- ・ 友だちと自分の作品の特徴について話し合い、よさやおもしろさを認め合っている。(学びに向かう力, 人間性等)

# ベニヤパズル：ワークシート No.1

( ) 小学校 年 組 名前 ( )

○ 自分めあて

--

○ 次のことに注意して、パズルの絵をワークシートNo.2にかいてみよう。

- 1 できるだけ大きくて、簡単な絵にする。
- 2 パズルのピースは8～10個程度にする。
- 3 パズルの線は、複雑にしない。
- 4 縦でも横でもかまわない。



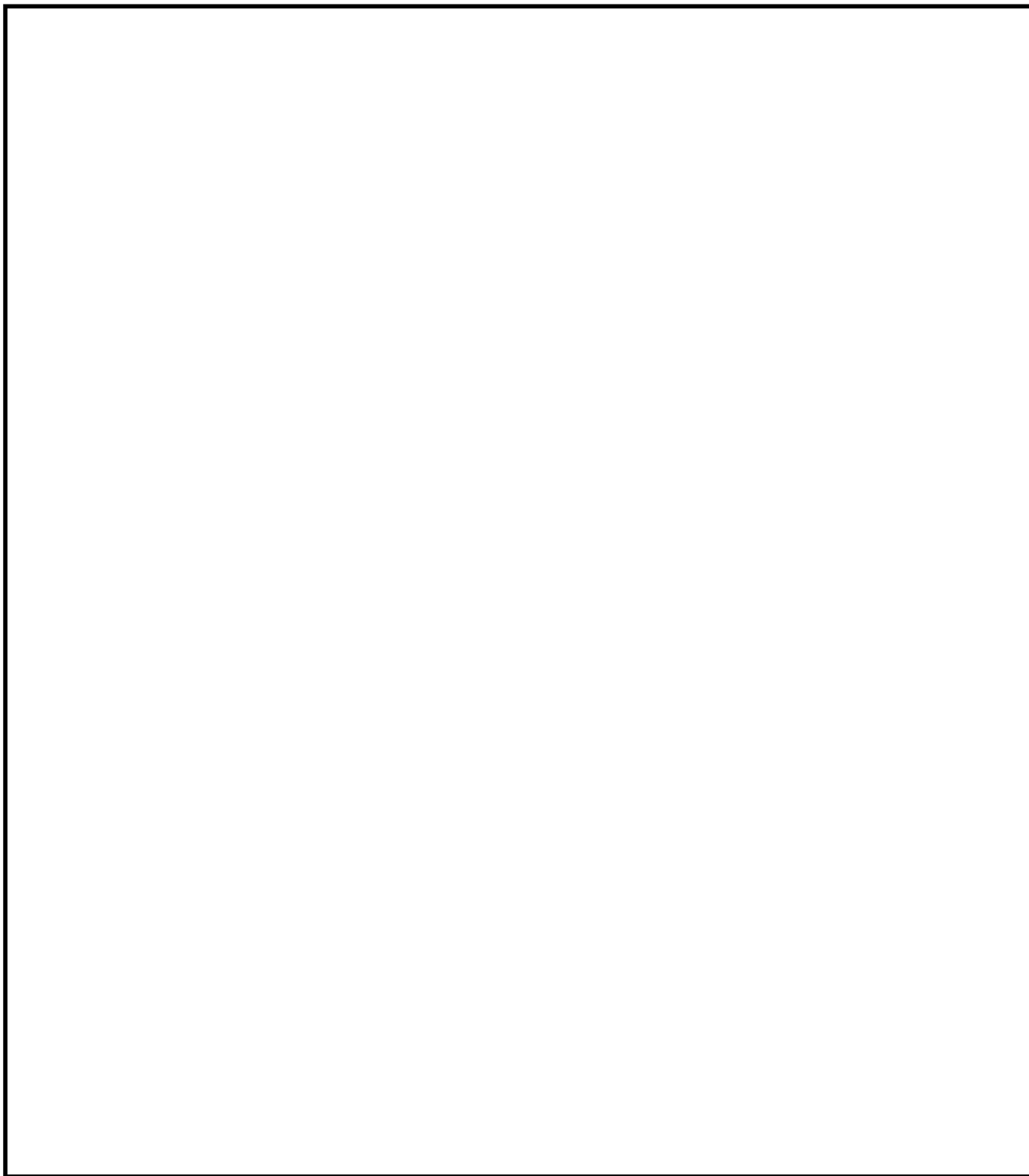
○ 自分の作品の気に入っているところや頑張ったところを書きましょう。


○ 友だちの作品のよいところやすてきだなと思うところを伝えましょう。

名 前	よいところ・すてきなところ

# ベニヤパズル：ワークシート No.2

(            ) 小学校    年    組    名前 (            )



## 暮らしに息づく土の造形

## 概要版

○ 学年・教科 中学1年 美術科（2時間）

○ 題材目標

土がもつ素材のよさを生かし、用途や機能と美しさなどを考え、土の生かし方や用具などを工夫して焼き物をつくる。

○ 活動プログラム 陶芸A ※ 最大60人(午前60人午後60人の入替で120人可能)

○ 単元計画(例)

学校における  
学習  
(1h)

- ・ 身近な焼き物からその用途や機能性について考える。
- ・ 使う目的や機能、美しさなどから形を考える。

青少研における  
学習  
2h

- ・ 土の特性を生かしながら、つくりたいものに合った技法で制作する。

学校における  
学習  
(1h)

- ・ 実際に料理などをのせた写真を使って事後レポートを作成し、よさや工夫について話し合う。

○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

**知識及び技能、安全**

- 焼き物の材料、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、温かさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。
- 焼き物の加工方法を身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しをもって安全に制作している。

**思考力・判断力・表現力等**

- 焼き物の特性や美しさなどを基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどの調和を考え、表現する構想を練っている。
- 焼き物のよさや使いやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。

**学びに向かう力、人間性等**

- 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく焼き物のよさや使いやすさなどを考えて、構想を練ったり、意図に応じて工夫し見通しをもって表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。
- 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく焼き物のよさや使いやすさ、調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。



## 指導案

### 1 題材名

「暮らしに息づく土の造形」

#### ○ 学習指導要領 美術 第1学年とのかかわり

##### A 表現

(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。

ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。

ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。

イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。

##### B 鑑賞

(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

#### [共通事項]

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

### 2 単元について

#### (1) 単元計画 (例)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】	○ 身近な焼き物からその用途や機能性について考える。 ○ 使う目的や機能、美しさなどから形を考える。	(1)	学校
【活動の実際】	○ 土の特性を生かしながら、つくりたいものに合った技法で制作する。	2	センター
【事後学習】	○ 実際に料理などをのせた写真を使って事後レポートを作成し、よさや工夫について話し合う。	(1)	学校

## (2) 集団宿泊学習として取扱う利点

本センターの研修1コマは150分であるため、連続した活動を行うことができることや、本センターに保管、展示されている陶芸作品は、コンクール等での入賞作品が多く、優れた作品を鑑賞することができる。(粘土500g 生徒一人370円)

## (3) 主体的で対話的な深い学びの視点

### ア 主体的な学び

#### (ア) 目指す子どもの姿

美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく焼き物のよさや使いやすさなどを考えて、構想を練ったり、意図に応じて工夫し見通しをもって表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。

#### (イ) 指導のポイント

自分なりの思いや願いをもち、試行錯誤しながら積極的に表し方を工夫したり、作品などの鑑賞に意欲的に取り組んだりすることを通して、自身の変容を実感できる主体的な学びができるようにする。

### イ 対話的な学び

#### (ア) 目指す子どもの姿

実際に料理などをのせた写真を使って事後レポートを作成し、よさや工夫について話し合うことができる。

#### (イ) 指導のポイント

材料や作品、活動を見つめる中での自分自身との対話や、活動の中で考えたこと、感じたことを友人と伝え合うことを通して、自分の見方や感じ方を広げたり、深めたりできるような対話的な学びにする。

### ウ 深い学び

#### (ア) 目指す子どもの姿

美術の創造活動の喜びを味わい、焼き物のよさや使いやすさ、調和や洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて、考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

#### (イ) 指導のポイント

「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させ、その力を発揮できるような深い学びにする。

## 3 活動プログラムの目標・評価規準

育成する資質・能力	目 標	評価規準
知識及び技能, 安全	○ 焼き物の加工方法を身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しをもって安全に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 焼き物の材料、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、温かさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。</li><li>・ 焼き物の加工方法を身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序、安全などを考えながら見通しを立てている。</li></ul>

<p>思考力・判断力</p> <p>表現力等</p>	<p>○ 焼き物の特性や美しさなどを基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどとの調和を考え、表現する構想を練る。</p>	<p>・ 焼き物の特性や美しさなどを基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどとの調和を考え、表現する構想を練っている。</p> <p>・ 焼き物のよさや使いやすさとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>○ 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく焼き物のよさや使いやすさなどを考えて、構想を練り、意図に応じて工夫したり、見通しをもって表したりする学習活動に取り組む。</p>	<p>・ 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく焼き物のよさや使いやすさなどを考えて、構想を練ったり、意図に応じて工夫し見通しをもって表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・ 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく焼き物のよさや使いやすさの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

#### 4 青少年研修センターでの展開 [美術科 2時間]

##### (1) ねらい

焼き物の加工方法を身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表すことができる。

##### (2) 展開

活動・場所	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
<p>【事前学習】 学校</p>	<p>○ 身近な焼き物からその用途や機能性について考える。</p> <p>○ 使う目的や機能、美しさなどから形を考える。</p>	<p>・ 事前にしっかり作品をイメージさせておく。</p>	<p>(1)</p>
<p>OP：陶芸作品鑑賞</p>	<p>・ 本センター収蔵品の鑑賞</p>	<p>・ 破損に注意する。</p>	
<p>【活動の実際】 センター（OR室）</p>	<p>○ 土の特性を生かしながら、つくりたいものに合った技法で制作する。</p>		<p>2</p>

	(1) 集合，健康観察 (2) プログラムについて説明 ① 作品が完成するまでの工程 ② 成形の仕方や道具の説明 ③ 注意事項の説明 等 (3) 成形 ・ 手びねりやひも作りなどで成形する。 (4) 作品運び ・ 棚板にのせて乾燥室に運ぶ。 (5) 活動の振り返り (6) 後片付け ・ 粘土板，用具，タオル等を洗う。 ・ 机の上をきれいにふく。	・ ひびや空気が入らないように注意する。 ・ 安定した形の物を作るように指導する。 ・ あまり高さのある物を作らないようにさせる。 ・ 一人一作品にする（小さな物をたくさん作らない）。 ・ 作品の底に必ず団体名と名前を書かせる。	
【事後学習】 学校	○ 実際に料理などをのせた写真を使って事後レポートを作成し，よさや工夫について話し合う。	・ 学校だけでなく，家庭でもコメントしてもらおうとよい。	(1)

### (3) 評価規準

- ・ 焼き物の加工方法を身に付け，意図に応じて工夫し，制作の順序，安全などを考えながら見通しを立てている。（知識及び技能，安全）
- ・ 焼き物の特性や美しさなどを基に，使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し，使いやすさと美しさなどとの調和を考え，表現する構想を練っている。  
（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく焼き物のよさや使いやすさなどを考えて，構想を練ったり，意図に応じて工夫し見通しをもって表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。（学びに向かう力，人間性等）

## 昆虫を調べよう

## 概要版

○ 学年・教科 小学3年 理科（3時間）

## ○ 単元目標

生き物と環境との関わりや昆虫の体のつくりを調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や生き物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

○ 活動プログラム 昆虫クラフト

## ○ 単元計画（例）

## 学校における学習

- ・ 「チョウを育てよう」「トンボやバッタを育てよう」（前単元）

## 青少研における学習

3h

- ・ 昆虫などの生き物がどのような場所で見つかるかについて考え、気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、学習課題を設定し、生き物探しの計画を立てる。
- ・ 計画に基づいて生き物探しを行い、どのような場所でどのような生き物を見付けることができたかを整理する。
- ・ 調べた生き物を比較しながら、昆虫の体のつくりの共通点についてまとめ、まとめたことを基に昆虫クラフトを制作する。

## 学校における学習

(1h)

- ・ 観察結果や作成した昆虫の模型と、これまでの学習を比較しながら、昆虫などの生き物のすみかや昆虫の体のつくりについてまとめ、まとめたことを発表する。

## ○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

**知識及び技能、安全**

- 生き物が周辺の環境と係わって生きていることや、昆虫の成虫の体は頭、胸及び腹からできていることを理解し、身の回りの生き物について調べた過程や結果などを分かりやすく記録している。

**思考力・判断力・表現力等**

- 生き物が生息している場所や昆虫の体のつくりについて、比較をしたり分類をしたりしながら、差異点や共通点を見だし表現している。

**学びに向かう力、人間性等**

- 細かい部分まで特徴を捉えようとしたり、調べたことや分かったことについて、分かりやすく説明したりしようとしている。

# 指導案

## 1 単元名 「昆虫を調べよう」

○ 学習指導要領 第2章 第4節 理科

第2 各学年の目標及び内容

〔第3学年〕

1 目標

(2) 生命・地球

- ① 身の回りの生物，太陽と地面の様子についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 身の回りの生物，太陽と地面の様子について追究する中で，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力を養う。
- ③ 身の回りの生物，太陽と地面の様子について追究する中で，生物を愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

2 内容

B 生命・地球

(1) 身の回りの生物

身の回りの生物について，探したり育てたりする中で，それらの様子や周辺の環境，成長の過程や体のつくりに着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物は，色，形，大きさなど，姿に違いがあること。また，周辺の環境と関わって生きていること。

(イ) 昆虫の育ち方には一定の順序があること。また，成虫の体は頭，胸及び腹からできていること。

(ウ) 植物の育ち方には一定の順序があること。また，その体は根，茎及び葉からできていること。

イ 身の回りの生物の様子について追究する中で，差異点や共通点を基に，身の回りの生物と環境との関わり，昆虫や植物の成長のきまりや体のつくりについての問題を見いだし，表現すること。

## 2 単元について

### (1) 単元計画 (例)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】 予想を立てる	・ 昆虫などの生き物をどのような場所で見つけることができるかについて考え，気付いたことや疑問に思ったことを話し合い，センターでの生き物探しに向けての学習問題を設定し，計画を立てる。	1	センター (※学校)
昆虫探し (調べ)	・ 自分たちが立てた計画に基づき，生き物探しを行う。 ・ どのような場所でどのような生き物を見付けることができたかを整理する。 ※ 学校の実態に応じて，「総合的な学習の時間」の「環境学習」でも実施可能。		センター
昆虫クラフト作成	・ 調べた昆虫を比較しながら，体のつくりの共通点についてまとめ，まとめたことを基に昆虫クラフトを制作する。	2	センター
【事後学習】 まとめ，発表	・ 観察結果や作成した昆虫の模型と，これまでの学習を比較しながら，昆虫などの生き物のすみかや昆虫の体のつくりについてまとめ，まとめたことを発表する。	(1)	学校

※ 学習過程の「予想を立てる」は，学校で事前学習として実施することも可能。

## (2) 1日研修（遠足等での利用）として取り扱う利点

- ア 生活科の学習との関連を考慮しながら、理科の学習の基盤となる自然体験の充実を図り、児童の野外での発見や気付きを大切にすることができる。
- イ 本センターには、「建物の周辺」「原っぱ」「林（雑木林）」など、敷地内に様々なエリアがあり、実際に生き物探しをしたり、環境による生き物の違いについて体験を通して学ばせたりすることに適した場所である。
- ウ 研修主事が、学習をサポートする体制が整っている。
- エ 昼食場所や昼休みの活動場所（遊具）、大型バス対応の駐車場、トイレなど、施設が充実している。雨天時の昼食場所や活動についても対応が可能。

## (3) 主体的で対話的な深い学びの視点

### ア 主体的な学び

#### (ア) 目指す子どもの姿

- ・ 虫眼鏡やデジタルカメラ、タブレット PC などを活用して、生き物を詳細に観察しようとしている。
- ・ 昆虫クラフト制作において、学習した内容を積極的に生かそうとしている。

#### (イ) 指導のポイント

- ・ どこにどのような生き物が生息しているか、生き物にどのような特徴があるかなど、児童に予想を立てさせてから、生き物探しに取り組ませる。
- ・ 昆虫クラフトでは、昆虫の特徴に加え、「何をしている場面か」を想像させることで、素材の組み合わせや加工の仕方を工夫させる。

### イ 対話的な学び

#### (ア) 目指す子どもの姿

- ・ 生き物と環境の関わりや昆虫の体のつくりについて比較したり分類をしたりする活動において、自分の考えと友達の考えの違いを尊重しながら、結論を導くことができる。

#### (イ) 指導のポイント

- ・ 相互理解を深め、より活発な対話的な学びを促すために、図や表を用いて、書き込んだりカードを貼ったりする活動を取り入れ、互いの考えを可視化させる。

### ウ 深い学び

#### (ア) 目指す子どもの姿

- ・ 生き物と環境の関わりについて、「えさとなる植物がある」「身を隠す場所がある」等、生き物が生息している場所について、理由も考えながら説明することができる。
- ・ 昆虫ではない生き物（クモやムカデ、カタツムリなど）についても関心を持ち、自ら進んで調べようとしている。

#### (イ) 指導のポイント

- ・ 生き物探しの学習で「なぜ、その場所が住みかになっているのか」と疑問を投げかけることで、これまでの生活体験に基づいて理由付けを行わせたり、図鑑等で調べたりさせる。
- ・ 昆虫以外の生き物については、家庭学習等を活用して、住んでいる環境や体のつくりなどについて調べさせる。

### 3 活動プログラムの目標・評価規準

育成する資質・能力	目 標	評 価 基 準
知識及び技能	生き物が周辺の環境と係わって生きていることや、昆虫の成虫の体が、頭、胸、腹からできていることを理解し、調べた過程や得られた結果を分かりやすく記録することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物は、周辺の環境と係わって生きていることを理解している。</li> <li>昆虫の成虫の体は頭、胸及び腹からできていることを理解している。</li> <li>虫眼鏡やデジタルカメラ、タブレットなど、観察に必要な機器を適切に使用することができる。</li> <li>身の回りの生き物について調べたり、調べた過程や結果などを分かりやすく記録したりしている。</li> </ul>
思考力・判断力 表現力等	生き物と環境との関わりや昆虫の体のつくりについて、差異点や共通点を基に問題を見いだしたり、観察から得られた結果を基に考察し、問題を解決したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き物が生息している場所に着目して、それらを比較しながら調べ、問題を見だし、表現している。</li> <li>昆虫の体のつくりに着目して、複数の種類の昆虫を比較しながら、成虫の共通点を見だし、表現している。</li> </ul>
主体的に学習に 取り組む態度	生き物と環境との関わりや、昆虫の体のつくりについて、進んで観察したり、観察で分かったことを学習や生活に生かそうとしたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接観察することに加え、虫眼鏡やタブレット PC などを用いて、細かい部分まで特徴を捉えようとしている。</li> <li>着目した点に即して仲間分けをしたり、調べたことや分かったことについて、分かりやすく説明したりしようとしている。</li> </ul>

### 4 青少年研修センターでの展開 [理科 3時間]

#### (1) ねらい

「生き物探し」で観察をしたり、「昆虫クラフト」で制作をしたりする学習を通して、生き物と環境の関わりや昆虫の体のつくりについて体験的に理解するとともに、比較・分類をする活動やそれをもとに話し合う活動を通して、課題を見だし、主体的に問題を解決できるようになる。

#### (2) 展開

活動・場所	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
センター	<p>&lt;打合せの実施&gt; 事前に担当職員と団体引率者で、引率者の配置や注意事項、連絡体制等について確認を行う。</p>		
※ 学習課題の設定まで、事前学習として学校で行っても良い。	<p>1 日頃、どこでどのような生き物を見ることができ るかについて話し合い、学習課題を設定する。</p> <p>どこにどんな生き物が住んでいるか調べよう。</p> <p>2 センターの地図をもとに、どのエリアにどんな生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図や写真を基に、それぞれの場所の特徴についても考えさせる。</li> </ul>	1



	<p>き物が生息していそうか予想を立てる。</p> <p>3 グループ決めや、担当エリアなどの計画を立てる。</p>		
生き物探しセンター	<p>4 観察する場所、観察に必要な道具や機器の使い方、安全な活動の仕方を確認する。</p> <p>5 グループごとに生き物調べをする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">活動場所(例)</div>  ( 研修棟や交換ホール, 宿舎等, 建物の周辺  草原) やかえでの園, 記念植樹園 等 )</p> <p>※ 見付けた生き物や見付けた場所(例:石の下)等をワークシートに記録する。</p> <p>※ 捕まえられる生き物は、虫眼鏡で観察する。</p> <p>※ 捕まえることが難しい生き物は、デジタルカメラやタブレットPCで写真を撮影し、後で詳細を観察する。</p> <p>6 グループ(エリア)ごとに見付けた生き物を発表し、どこにどんな生き物が多く住んでいるかについてまとめるとともに、その要因について考える。</p> <p>7 生き物と環境の関わりについてまとめる。</p>	<p>※ 有害動植物(ハチ, 毒蛇, ハゼの木等)に注意させる。</p> <p>・ 「建物」「草原」「記念植樹園」など, 大まかにエリアを分けて観察を行う。</p> <p>※ 道具・機器等(準備)  虫眼鏡(センター)  デジタルカメラ(学校)  タブレットPC(学校)</p>	
昆虫クラフトセンター	<p>&lt;打合せの実施&gt; 事前に担当職員と団体引率者で、役割分担や道具(グルーガン)の使い方、注意事項等について確認を行う。</p> <p>1 「生き物探し」で見付けた生き物を、特徴に着目し、て整理し、昆虫(成虫)の体のつくりについて考える。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">昆虫の体のつくりをよく見て、クラフトを作ろう。</div> <p>3 クラフトの作り方や道具の使い方、安全な活動の仕方を確認する。</p> <p>4 クラフトを制作する。  (1) 昆虫の体の形・大きさ・色等, 全体のバランスを考えて材料を加工する。  (2) 加工した材料をグルーガンで接着する。</p>	<p>※ クラフトの素材は、センター職員が準備しておく。</p> <p>※ 必要な道具  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">剪定ばさみ, はさみ  きり, ラジオペンチ  水性ペン, グルーガン</div></p> <p>・ デジタルカメラやタブレットPCで撮影した写真があれば、それを</p>	2

	<p>(3) スプレーニスをかけて仕上げる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;ポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頭・胸・腹の3つの部分からできている。</li> <li>・ 胸には3対6本の足がある。</li> </ul> </div> <p>5 完成したクラフトを相互に鑑賞し合い、昆虫の体のつくりの特徴についてまとめる。</p>	参考にしながらかつくる。	
【事後学習】 学校	<p>1 「生き物探し」の観察結果（どこにどの生き物が生息しているか、なぜそこに多いのか等）や、昆虫の体のつくりの特徴についてまとめ直す。</p> <p>2 まとめたことを発表し、学習全体を振り返る。</p>		(1)

### (3) 評価規準

- ・ 生き物が周辺の環境と関わって生きていることや、昆虫の成虫の体は頭、胸及び腹からできていることを理解し、身の回りの生き物について調べた過程や結果などを分かりやすく記録している。(知識・技能)
- ・ 生き物が生息している場所や昆虫の体のつくりについて、比較をしたり分類をしたりしながら、差異点や共通点を見だし表現している。(思考力・判断力・表現力等)
- ・ 直接観察することに加え、虫眼鏡やタブレットPCなどを用いて、細かい部分まで特徴を捉えようとしたり、調べたことや分かったことについて、分かりやすく説明したりしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)



# ちゅう しら こん虫を調べよう①

なまえ  
名前( )

<めあて>

どこにどんな生き物が住んでいるか、調べよう。

1 青少年研修センターの、どのエリアに、どんな生き物を見付けることができたかな。整理してみよう。



	たてもの建物エリア	そうげん草原エリア	きねんしよくじゆえん記念植樹園エリア
見つけた生き物			

2 生き物と住んでいる場所の関係にはどんなひみつがあるかな？考えてみよう。

	たてもの建物エリア	そうげん草原エリア	きねんしよくじゆえん記念植樹園エリア
ひみつ			

<まとめ>

# ちゅう しら こん虫を調べよう②

なまえ  
名前( )

<めあて> **ちゅう からだ み つく**  
こん虫の体のつくりをよく見て、クラフトを作ろう。

せいしょうねんけんしゅう  
1 青少年研修センターで見つけた生き物の体のつくりを整理してみよう。

い もの 生き物の名前	からだ 体がいくつの部分 ぶぶん できているか	あし 足がある ほんすう (本数)	はね はねがある	しよっかく 触角がある	ほか その他のとくちょう
(例)コオロギ	3つ	ほん 6本	○	○	・ ピョンピョンはねる。 ・ 鳴く。

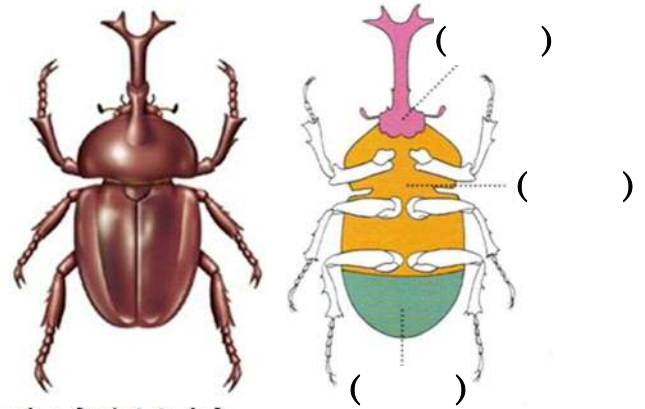
ちゅう からだ  
2 こん虫の体のつくりをまとめよう。

ポイント①

ちゅう からだ  
こん虫の体は、( )、( )、( )の  
3つの部分からできている。

ポイント②

ちゅう  
こん虫の( )には足が( )本ある。



ちゅう からだ き つく  
3 こん虫の体のつくりを気をつけながら、こん虫クラフトにちょうせんしよう。

<作り方>

- ① ちゅう からだ おお かたち かんが  
こん虫の体のつくり、大きさや形などを考  
え、材料を加工する。
- ② かこう ざいりよう  
加工した材料をグルーガンでせっちゃくする。
- ③ スプレーニスをかけて仕上げる。

がくしゅう  
学習をふりかえって

---

---

---

---

---

---

---

---



## 体づくり運動（体ほぐしの運動）

### 概要版

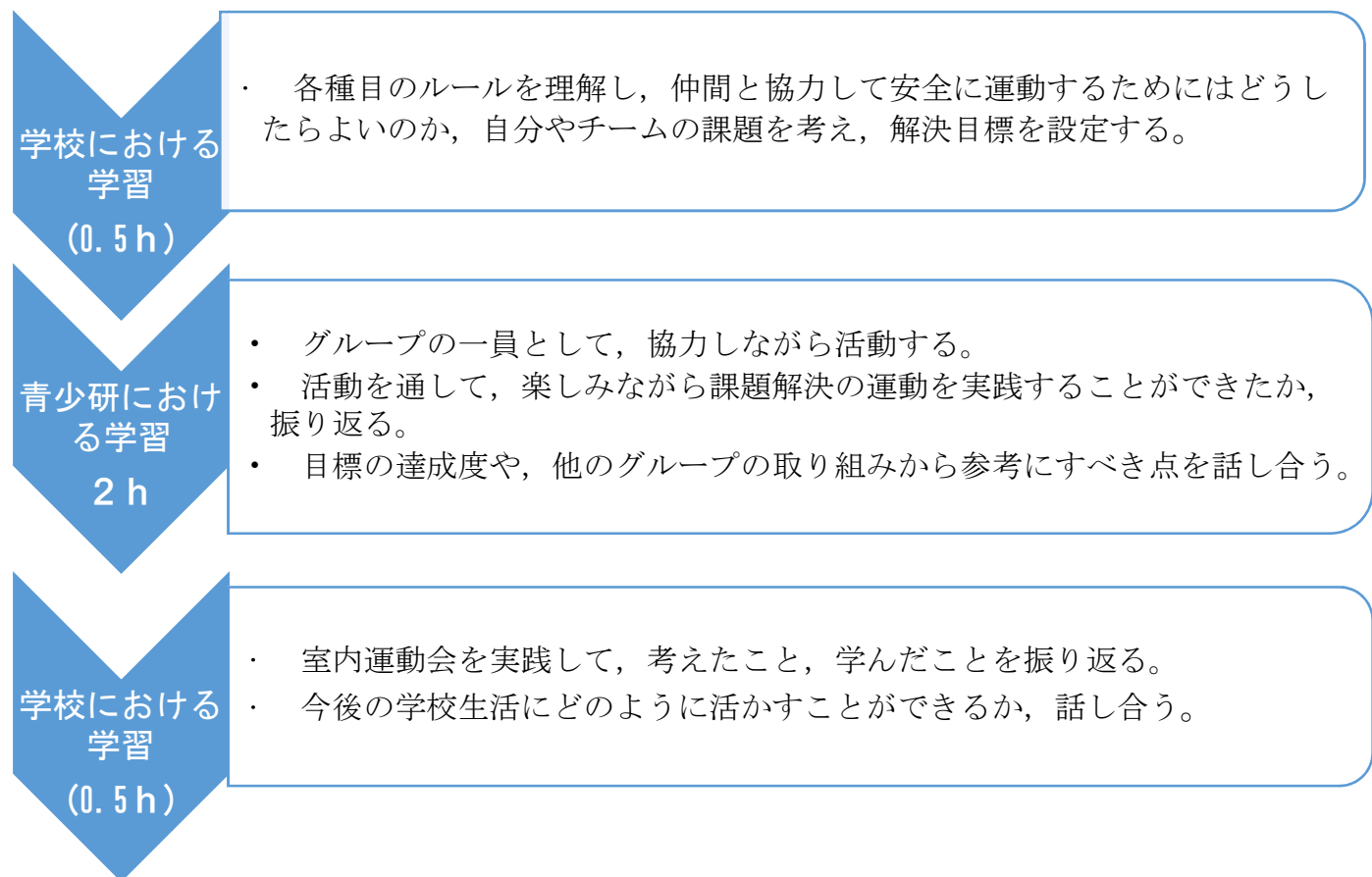
○ 学年・教科 小学5年 体育科（2時間）

○ 単元目標

運動に積極的に取り組むことを通して、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたりすることができる。また、場や用具使い方など、安全に気を配って活動することができる。

○ 活動プログラム 室内運動会

○ 単元計画（例）



○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

#### 知識及び技能、安全

○ 運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、安全に留意しながら体を動かす心地よさを味わったり、体の動き方を高めたりすることができる。

#### 思考力・判断力・表現力等

○ 自分の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

#### 学びに向かう力、人間性等

○ 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考え方や取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

## 指導案

### 1 単元名 「体づくり運動（体ほぐしの運動）」

#### ○ 小学校学習指導要領 第2章 第9節 体育

##### 第2 〔第5学年及び第6学年〕

##### 2 内容

##### A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすること。
  - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすること。
  - イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすること。
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

#### ○ 中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育

##### 第2 〔体育分野 第1学年及び第2学年〕

##### 2 内容

##### A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。
  - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。
  - イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。
- (2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする事、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする事、話合いに参加しようとする事などや、健康・安全に気を配ること。

## 2 単元について

### (1) 単元計画（例）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
体ほぐしの運動 〈やってみる①〉	オリエンテーション めあて：いろいろな体ほぐしの運動をしてみよう。 仲間と一緒に運動を行うことで体ほぐしの運動を楽しむ。	(1)	学校
体ほぐしの運動 〈やってみる②〉	整列，挨拶，準備運動，用具や場の準備 めあて：いろいろな体ほぐしの運動をしてみよう。 仲間と一緒に運動を行うことで体ほぐしの運動を楽しむ	(1)	学校
体ほぐしの運動 〈ふかめる〉	整列，挨拶，準備運動，用具や場の準備 めあて：これまで経験した運動や学習資料の運動から選んで取り組もう。 ペアやグループで相談しながらやってみたい運動を選んで行い，心と体の関係について考える。	2 本時	センター

### (2) 集団宿泊学習として取扱う利点

ア 連続した単元計画を立てられ，前時の振り返りをすぐ生かすことができる。

イ 集団での活動が続くことで帰属意識が高まり，他者との相違に気付いたり，協力したりする意識が高まる。

### (3) 主体的で対話的な深い学びの視点

#### ア 主体的な学び

##### (ア) 目指す子どもの姿

- a 体力を高めることに対して「楽しさ」「健康の意義」を感じ，進んで運動に取り組む姿。
- b 単元を通して「運動を楽しむ」という思いをもち，仲間と一緒に運動に取り組む姿。
- c 自分の体力の状況を知ったり，様々な動きを試したりすることを通して，体力を高めるためにはどのような運動に取り組むとよいかを考え，めあてをもって運動に取り組む姿。

##### (イ) 指導のポイント

- a 手軽な運動を行うことで，体を動かす楽しさや心地よさを味わわせる。
- b 仲間と豊かに交流するように配慮する。
- c めあてを明確にし，個人の目標にまで思いをめぐらすようにする。

#### イ 対話的な学び

##### (ア) 目指す子どもの姿

- a 自分や他者（仲間や学習資料など）との対話を通し，適切な運動の仕方を考え，「運動を楽しむ」ことに対して思考を広げる姿。
- b クラスの仲間と運動や健康についての課題や一単位時間のめあての解決を目指して話し合ったり，励まし合いながらともに運動したりする姿。

##### (イ) 指導のポイント

- a 運動を楽しむために，自分の役割や仲間の役割などを思考させる。

b 仲間と仲良く協力して運動することで、楽しさが増すことを実感させる。

## ウ 深い学び

### (7) 目指す子どもの姿

a 自分や仲間の「体力を高める」ために、「運動の楽しみ方」などを試行錯誤しながら運動に取り組む姿。

b 運動の「記録」と「体の感じ方」、学習資料や既習事項を参考に振り返り「心と体の関係」を考え、課題解決しながら「体力が高まるとはどのようなことか」をより理解しようとする姿。

### (1) 指導のポイント

a 技術の習得を狙いの中心にせず、仲間の運動を参考に工夫させる。

b 体を動かすと心も弾むことや、運動して心も体も軽やかになること、仲間と協力して運動すると楽しさが増すこと等を実感できるように、教師による言葉かけを工夫する。

## 3 活動プログラムの目標・評価規準

育成する資質・能力	目 標	評価規準
知識及び技能、 安全	自分の体に関心を持ち、体ほぐしの運動や体力を高める運動に進んで取り組もうとする。また、互いに協力し、安全に気を付けて運動しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに声をかけ合い、励まし合って運動に取り組もうとする。</li> <li>巧みな動きを高める運動の学習に興味を持ち、安全に学習を進めていくためのきまりを守ろうとする。</li> </ul>
思考力・判断力 表現力等	体ほぐしの行い方や体力の高め方を考えたり、自己の体や体力の状態に応じて、その行い方を工夫している。また、ねらいをもってそれにふさわしい運動を工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の中で、自分や仲間の体の動き方のよさに気付き、さらに動き方を工夫している。</li> <li>自分の力に合った課題を持ち、巧みな動きを高める運動に取り組んでいる。</li> </ul>
学びに向かう力、 人間性等	体力を高める運動のねらいに合った動き（動作）ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体全体をリラックスさせることができる。</li> <li>仲間と触れ合いながら体を動かすことができる。</li> </ul>

## 4 青少年研修センターでの展開 [体育科 2時間]

### (1) ねらい

- 仲間と協力し合ったり、励まし合ったりしながら、運動を楽しむことができる。
- 競技を通して、巧みな動きを高めるとともに、仲間と豊かにかかわることの楽しさを体験することができる。



(2) 展開

時間	具体的な活動内容	指導上の留意点（・）と評価（◆）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の目標の設定（ワークシートの記入）</li> <li>○ 準備運動と感覚づくり（簡単な動き）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リズムトレーニング</li> <li>・ ランニング</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の活動内容を理解し、目標を設定する。</li> <li>・ リズムよく手足を動かすことができるよう助言する。</li> <li>・ 音楽をかけながら、動きやすく開放的な雰囲気になるようにする。</li> </ul>
展開 100分	<p>体ほぐしの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアでいろいろな運動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔軟運動</li> <li>・ ジャンケン紹介</li> </ul>               〈目的〉他者を理解し、活動推進の雰囲気作りを行う。             </li> <li>・ 新聞ボール               〈目的〉運動の仕方を工夫し、他者を参考にする。             </li> <li>○ グループでいろいろな運動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短距離走（ちょこちょこ走るリレー）</li> </ul>               〈目的〉運動の楽しさを味わい、友だちを応援する。             </li> <li>・ フープで体抜き               〈目的〉事前練習で動き方を話し合ったり、自分や友だちの運動を工夫する。             </li> <li>・ 輪入れ（ボーリングのピンを的にした輪投げ）               〈目的〉運動の楽しさを味わい、友だちを応援する。             </li> <li>○ グループで練習し、実施する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピンポン転がし（団扇でボールを転がすゲーム）</li> </ul>               〈目的〉グループ内で、創意工夫する。             </li> <li>・ 関所やぶり（じゃんけんを使ったゲーム）               〈目的〉グループ内で、応援し合い、創意工夫する。             </li> <li>○ 全員で考えて挑戦する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一発逆転（決断が得点を左右するゲーム）</li> </ul>               〈目的〉グループ内で、意見を出し合い、創意工夫する。             </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の体はどんな状態か、考えるよう助言する。</li> <li>・ ジャンケンなどを使って、相手の好きな色など特徴を知り、理解を深めるように助言する。</li> <li>・ 運動の素早さが有利にならないように別の方法で配慮する。</li> <li>・ ペアのよさを確認する場の設定</li> </ul> <p>◆ 楽しみながら、意欲的に仲間とかかわろうとしているか。（観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループのよさを確認する場の設定をする。</li> <li>・ グループ間でアドバイスをしよう助言する。</li> <li>・ つまずきのポイントを観察し、助言する。</li> <li>・ 走るタイミング、他のメンバーへの声のかけ方、励まし合い方など</li> <li>・ グループのよさを確認する場の設定</li> </ul> <p>◆ ルールを理解し、勝利するための方法を考えているか。（観察）</p> <p>◆ リーダーシップを発揮したり、声をかけたりして、積極的に友だちとかかわろうとしているか。（観察、発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な意見や考えが出るように促す。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リラクゼーション</li> <li>・ ストレッチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の体はどんな状態か, 考えるように助言する。</li> </ul>
<b>終 末 10 分</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人やグループでの活動の振り返り（ワークシートの記入）</li> <li>○ 感想発表</li> <li>・ 自分の気付きについて発表する。</li> <li>・ 仲間の気付いたことについて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特にペアやグループでの活動を想起させる。</li> <li>・ よかったところに着目させ, またやってみたいという楽しい雰囲気終わるようにする。</li> </ul>

### (3) 評価規準

- ・ 仲間と協力し合ったり, 励まし合ったりしながら, 運動を楽しんでいる。
- ・ 競技を通して, 巧みな動きを高めるとともに, 仲間と豊かにかかわることの楽しさを体験することができている。



## 「室内運動会」ワークシート

( ) 学校 ( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

○ 自分の目標

--

○ グループの目標

--

○ 室内運動会の記録

競技（ゲーム）名	記録（結果）	感想（自分や仲間、グループのこと）

○ 活動中、自分がかんばったこと、工夫したこと

--

○ 活動中、仲間やグループのよかったところ

--

○ 今後、学校生活で生かせること（学級目標として取り入れたいこと）

--

## よりよい人間関係の形成

### 概要版

○ 学年・教科 中学1年 学級活動（2時間）

○ 単元目標

自他の個性を尊重し合い、互いのよさや可能性を見だし、課題に対する解決方法を話し合っ合意形成を図り、自分の役割を意識しながら協力して取り組めるようにする。

○ 活動プログラム レクリエーション2

○ 単元計画（例）

- 1 入所から、昼食までの時間を利用
- 2 学校での、事前学習の時間を利用

事前学習

(1h)

- ・ **課題把握** 「パイプライン」「以心伝心」「輪くぐり」「日本地図」など
- ・ **課題解決策の立案**
- ・ 課題を最適にクリアするためには、どのようにしたらよいのかを話し合い、多様な意見を生かしながら合意形成を図り、解決方法と目標を決める。

青少研における学習

2h

- ・ **解決に向けた実践**
- ・ 課題解決ゲームについて話し合った方法で取り組み、結果から更に最適な解決方法について話し合い、合意形成を図りながら挑戦する。
- ・ **振り返り（評価）、成果や課題の考察**
- ・ 活動後に、達成度や他のグループの取り組みなどを見て学んだこと、感じたことなど振り返る。

事後学習

(1h)

- ・ **振り返り**
- ・ 実践をもとに個人・グループの取組内容や目標の達成度を振り返る。
- ・ **新しい課題に向けた取組の考案**
- ・ これからの学校生活・学級集団の中で、生かせることを考え、実践につなげる。

- 1 研修Ⅲ、または最終日の昼食後から退所までの時間を利用
- 2 学校での事後学習の時間を利用

○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

#### 知識及び技能、安全

- 多様な他者と協働する意義や活動への参画の仕方、グループとして意見をまとめる話し合い活動の仕方について理解している。

#### 思考力・判断力・表現力等

- 自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、よりよい解決方法について考え、判断し、仲間意識をもって実践している。

#### 学びに向かう力、人間性等

- 課題解決に関心をもち、自主的、自律的に取り組み、他者と協働しながら人間関係をよりよく形成しようとしている。

## 指導案

### 1 単元名 「よりよい人間関係の形成」

- 小学校学習指導要領 第6章 特別活動  
第2 [学級活動]  
2 内容  
(1) 学級や学校における生活づくりへの参画  
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決  
学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。  
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
イ よりよい人間関係の形成  
学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。
- 中学校学習指導要領 第5章 特別活動  
第2 [学級活動]  
2 内容  
(1) 学級や学校における生活づくりへの参画  
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決  
学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。  
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成  
自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を發揮しながらよりよい集団生活をつくること。

### 2 単元について

#### (1) 単元計画 (例)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】 問題の意識化	【学級活動 1 時間】 ・ 課題について知り、どのようにしたら解決できるか、また目標を達成できるかを話し合い、合意形成のもと、試みる方法を見いだす。さらに、個人での目標を設定し、それを持ち寄り、各グループの目標を設定する。	(1)	センター (学校)
【レクリエーション2の実際】 活動の実際	【学級活動 2 時間】 ・ 活動のはじめに、個人及びグループの目標を確認する。 ・ レクリエーション2の活動を始める。 ① 事前にグループで決めた取り組み方法を試みる。 ② 試みた結果を受けて、グループで話し合い、よりよい方法を模索し、合意形成のもと1つの方法に絞り込む(レベルアップ(リベンジ, チャレンジ)タイム)。 ③ ②で決めた方法を試みる。 ④ ③の結果について、グループで意見交換する。 ・ 活動の終わりに、全体を振り返り、それぞれの思いや考えを共有する。	2	センター

<p><b>【事後学習】</b> 振り返り</p>	<p><b>【学級活動 1 時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動前に立てた個人及びグループの目標について振り返りながらワークシートにまとめる。</li> <li>活動を通して気付いたことをワークシートに記入する。 (例: 新たな発見, 他人の良かったところ, 生活に生かせること 等)</li> <li>それぞれの思いを共有する。</li> <li>これからの学校生活の中で, 生かせることはないか考え, 実践に繋げていく。</li> </ul>	<p>(1)</p>	<p>センター (学校)</p>
-------------------------------	--	------------	----------------------

## (2) 集団宿泊学習として取扱う利点

普段と異なる環境がいつもとは違う気持ちを引き出し, 活動を通して他者のよいところに気付き, 互いの存在を尊重し合うことができる。また, 学年全体で同じ課題解決ゲームを一斉に展開できることで, ゆとりをもった活動が可能であり, 同じ思いを全員で共有することができる。

## (3) 主体的で対話的な深い学びの視点

### ア 主体的な学び

#### (7) 目指す子どもの姿

よりよく活動するために課題解決の方法を進んで考え, 話し合い活動から出てきた様々な考えから合意形成を図り, 自分の役割を自覚しながら協働して活動する姿を目指す。

#### (4) 指導のポイント

各活動において, 課題の把握, 課題解決の方法の検討, 合意形成, 実践などの話し合い活動に意欲をもたせるようにする。

### イ 対話的な学び

#### (7) 目指す子どもの姿

話し合い活動や実践の中で, 他者の意見を尊重しながらも自分の意見をしっかりと発言し, よりよく活動するために協働して実践できる姿を目指す。

#### (4) 指導のポイント

他者の意見を尊重した言動に留意させ, よりよい人間関係を形成できるようにする。また, 全員が発言しやすい雰囲気作りに努める。活動後の振り返りでは, 互いの思いを伝え合う場面を設定し, 多様な考え方があることに気付かせ, 視野を広げられるようにする。

### ウ 深い学び

#### (7) 目指す子どもの姿

活動を通して身に付けたよりよい人間関係を形成するための知識や技能から, 日常の学校生活をよりよくしていくための視点を持ち, 今後の生活に生かしていく姿を目指す。

#### (4) 指導のポイント

ワークシートを活用してまとめを行う中で, 新しい発見や視点を全体で共有することができる場面を設定し, 集団の人間関係が向上していく過程も気付けるようにする。

### 3 活動プログラムの目標・評価規準

レクリエーション2（課題解決ゲーム）を通して、協働しながら活動する中で、コミュニケーションスキルを高め、学級・学年の人間関係をよりよく形成しようとする態度を養う。また、課題から解決の方法や約束について話し合い、合意形成を図り、自分の役割を意識しながら活動できるようにする。

育成する資質・能力	目 標	評価規準
知識及び技能, 安全	課題を解決するために、話し合いや協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決のために話し合い、協働して取り組むことの大切さを理解している。</li> <li>活動を通して、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。</li> </ul>
思考力・判断力 表現力等	課題を解決する方法について話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決のための様々な方法を見いだしている。</li> <li>多様な意見を積極的に生かして合意形成を図っている。</li> <li>協働しながら、合意形成したことを実践している。</li> </ul>
学びに向かう力, 人間性等	自分のよさを生かしながら他者と協働し、人間関係をよりよく形成して課題を解決しようとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のよさを生かしながら他者と協働し、人間関係をよりよく形成して実践している。</li> </ul>

### 4 青少年研修センターでの展開 【学級活動 2時間】

#### (1) ねらい

「レクリエーション2」を通して、児童生徒のコミュニケーションスキルを高め、協働しながら活動する中で、学級・学年のよりよい人間関係を形成しようとする態度を養う。また、課題解決の方法や約束について話し合い、合意形成を図り、自分の役割を意識しながら活動できるようにする。

#### (2) 展開

活動・場所	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
【事前学習】 センター (学校)	<ol style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション2の内容やねらいについて説明を聞く。</li> <li>取り組む課題解決ゲームについて、グループで取り組み方法について話し合い、合意形成のもと、試みる方法を決める。</li> <li>ワークシートに個人の目標を記入する。</li> <li>グループ内で個人の目標を発表し、グループでの目標を決め、ワークシートに記入する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前にグループ編成を行っておく。</li> <li>レクリエーション2の内容は、事前にセンター職員と引率者と打合せを行い、児童生徒の実態に適した課題解決ゲームを選択する。</li> </ul>	学級活動 (1)

<p>【レクリエーション2】 センター</p>	<p>1 健康観察，安全指導を行う。 2 ワークシートの，個人・グループの目標を確認し，意識化を図る。(取組に向かう姿勢等) 3 レクリエーション2の実際</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パイプライン</li> <li>・UFO</li> <li>・ワープスピード</li> <li>・以心伝心</li> <li>・輪くぐり</li> <li>・日本地図</li> <li>・ヒューマンチェア</li> <li>・フットタワー</li> <li>・人間知恵の輪 等</li> </ul> </div> <p>※ それぞれの課題解決ゲームについて，事前学習で決めた方法で試み，その後，レベルアップタイムを設け，さらによいタイム・回数を目指すために，工夫・改善された方法を再考し，再度同じ課題解決ゲームに取り組む。</p> <p>4 活動の終わりに，活動を通して感じたことや気付いたことなどを発表し合い，思いや考えを共有する。(よかったこと・うれしかったこと等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の状況に応じて，アイスブレイキング(雰囲気作りのレクリエーション)を取り入れる。</li> <li>・ 身体接触の度合いを考慮して課題解決ゲームの流れを組み立てる。</li> <li>・ 課題解決ゲームに取り組みながら，合意形成の手順や課題解決の方法について学ばせ，円滑に進められるように助言する。</li> <li>・ レベルアップタイムでは，グループごとに，具体的なタイムや回数を設定させる。</li> <li>・ ワークシートにタイムや回数を記録させる。</li> <li>・ 安全面に留意して活動させる。</li> </ul>	<p>学級活動 2</p>
<p>【事後学習】 センター (学校)</p>	<p>1 活動を振り返り，個人・グループで立てた目標を振り返り，ワークシートに記入する。 2 記入したことをもとに，グループ内で発表し合い，思いや考えを共有する。 3 これからの学校生活でも継続して意識したり，新たに学級の目標に取り入れたりしたらよいことなどについて話し合う。 4 グループで意見交換したことを全体で発表し，共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人での振り返りは，集中して取り組めるような環境を設定する。</li> <li>・ 互いの思いや考えを尊重できるような話し合い活動になるよう支援する。</li> </ul>	<p>学級活動 (1)</p>
<p>学校</p>	<p>1 学級目標に新たに追加された項目を学級掲示に付け加える。 2 学級全体で確認し，意識して学校生活を送れるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動で学んだことを学校生活でも継続して実践できるよう，適宜声掛けを行いながら支援していく。</li> </ul>	

(3) 評価規準

- ・ 課題解決のために話し合い，協働して取り組むことの大切さを理解し，合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。(知識及び技能，安全)
- ・ 課題解決のための様々な方法を見だし，多様な意見を積極的に生かして合意を図り，協働しながら実践している。(思考力，判断力，表現力等)
- ・ 活動がよりよいものになるように話し合ったことを，自分のよさを生かしながら他者と協働し，よりよい人間関係を形成しながら実践している。(学びに向かう力，人間性等)





# 「レクリエーション2」ワークシート

( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

○ 自分の目標

○ グループの目標

○ レクリエーションの記録

課題解決ゲーム名	1回目の記録	2回目の記録	感想
1			
2			
3			
4			
5			

○ 活動中、いいなあと感じたことや気付いたこと

○ 活動を通しての感想

○ 学校生活で生かせること（学級目標に取り入れたいこと）

## よりよい学校生活， 集団生活の充実（協力）

### 概要版

○ 学年・教科 中学1年 特別の教科 道徳（1h）「むかで競争」  
（指導内容C主として集団や社会との関わりに関すること「よりよい学校生活， 集団生活の充実」）

○ ね ら い

集団生活を向上させるために，自分たちにできることを考える活動を通して，学級や学校の一員としての役割と責任を自覚することの大切さに気付き，協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。

○ 活動プログラム グループワークトレーニング（GWT）

○ 単元計画（例）

- 1 入所から，昼食までの時間を利用
- 2 学校での，事前学習の時間を利用

事前学習  
(1h)

#### ・ 課題把握

・ 教科書「むかで競争」を読み，登場人物の心情の変化を考えたり，これまでの自分を振り返ったりすることで，学級や学校の集団について課題意識をもつ。

#### ・ 課題解決策の立案

・ グループワークトレーニングとは，人間関係を学ぶ体験学習であることを知り，集団の一員としての意識を高め，望ましい集団として機能するために大切なことを考える。

青少研における学習  
2h

#### ・ 解決に向けた実践

・ 課題解決に向けてグループで話し合った方法で取り組み，結果からさらに最適な解決方法について話し合い，合意形成を図りながら挑戦する。

#### ・ 振り返り（評価），成果や課題の考察

・ 活動後に，達成度や他のグループの取り組みなどを見て学んだこと，感じたことなどを振り返る。

事後学習  
(0.5h)

#### ・ 振り返り

・ グループワークトレーニングを実際にやってみて，学んだこと，感じたこと，今後の生活に生かしたいことをまとめる。

#### ・ 新しい課題に向けた取組の考案

・ これからの学校生活・学級集団の中で生かせることを考え，実践につなげる。

- 1 研修Ⅲ，または最終日の昼食後から退所までの時間を利用
- 2 学校での事後学習の時間を利用

○ 活動プログラムにおける目指す児童生徒の姿（資質・能力）

#### 知識及び技能，安全

○ 集団が集団として機能するためには，何が必要なのかを理解し，自分の考えや他人の考えを互いに尊重しながら，集団としての考えを導き出す技能を身に付けることができるようにする。

#### 思考力・判断力・表現力等

○ 自分と他者の考えの違いを比較しながら，受容的な雰囲気の中で集団としての考えを導き出せるようにする。

#### 学びに向かう力，人間性等

○ 集団としてのメンバーシップやリーダーシップの必要性を認識し，それを高めるためのアクティビティに積極的に取り組むことができるようにする。

## 指導案

### 1 単元名

「よりよい学校生活，集団生活の充実（協力）」

- 小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳  
第2 内容  
C 主として集団や社会との関わりに関すること  
[よりよい学校生活，集団生活の充実]  
[第5学年及び第6学年]  
先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくるとともに，様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
- 中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳  
第2 内容  
C 主として集団や社会との関わりに関すること  
[よりよい学校生活，集団生活の充実]  
教師や学校の人々を敬愛し，学級や学校の一員としての自覚をもち，協力し合っ  
てよりよい校風をつくるとともに，様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と  
責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

### 2 単元について

#### (1) 単元計画（例）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】 問題の意識化	【特別の教科 道徳】 ・ 課題について知り，どのようにしたら解決できるか，また目標を達成できるかを話し合い，合意形成のもと，試みる方法を見いだす。さらに，個人での目標を設定し，それを持ち寄り，各グループの目標を設定する。	(1)	センター (学校)
【グループワーク トレーニングの実際】 活動の実際	【特別の教科 道徳】 ・ 活動のはじめに，個人及びグループの目標を確認する。 ・ グループワークトレーニングの活動を始める。 ① 事前にグループで決めた取り組み方法を試みる。 ② 試みた結果を受けて，グループで話し合い，よりよい方法を模索し，合意形成のもと1つの方法に絞り込む。 ③ ②で決めた方法を試みる。 ④ ③の結果について，グループで意見交換する。 ・ 活動の終わりに，全体を振り返り，それぞれの思いや考えを共有する。	2	センター

<b>【事後学習】</b> <b>振り返り</b>	<b>【特別の教科 道徳】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動前に立てた個人及びグループの目標について振り返りながらワークシートにまとめる。</li> <li>・ 活動を通して気付いたことをワークシートに記入する。 (例:新たな発見,他人の良かったところ,生活に生かせること等)</li> <li>・ それぞれの思いを共有する。</li> <li>・ これからの学校生活の中で,生かせることはないか考え,実践に繋げていく。</li> </ul>	(0.5)	センター (学校)
------------------------------	--	-------	--------------

## (2) 集団宿泊学習として取扱う利点

集団宿泊学習での体験活動は、自分自身を見つめ直すきっかけや、他者とのつながりを感じられるよい機会となる。子どもたちは、豊かな自然が広がる環境の中で、いつもとは違う気持ちを引き出せ、活動を通して他者のよいところに気づき、互いの存在を尊重し合うことができる。

また、学年全体で同じ課題解決プログラムを一斉に展開できることで、ゆとりをもった活動が可能であり、同じ思いを全員で共有することができる。

## (3) 主体的で対話的な深い学びの視点

### ア 主体的な学び

#### (7) 目指す子どもの姿

グループで課題解決の方法を話し合ったりアイデアを出し合ったりする中で、多様な見方や考え方があることを理解し、自分の役割を自覚しながら協働して活動することで、望ましいグループに向けて積極的に合意形成を図ろうとする姿を目指す。

#### (イ) 指導のポイント

課題把握、課題解決方法に向けての検討や選択・決定、グループ内の合意形成、実践などの話し合い活動に見通しをもたせ、意欲を高めさせる。

### イ 対話的な学び

#### (7) 目指す子どもの姿

話し合い活動や実践を通して、他者の意見や多様な見方・考え方を尊重しながら、自分の意見も大事にすることで、よりよいグループ活動になるよう協働して実践できる姿を目指す。

#### (イ) 指導のポイント

よりよい人間関係のもとで、様々な意見に対し、受容的・共感的な態度を育成するとともに、全員が発言しやすい雰囲気作りに努める。活動後の振り返りでは、互いの思いを伝え合う場面を設定し、多様な見方や考え方があることに気付かせ、視野を広げられるようにする。

### ウ 深い学び

#### (7) 目指す子どもの姿

活動を通して身に付けた望ましいグループや他者理解のための知識や技能等から、これからの学校生活や人間関係をより良くしていこうとする態度を養い、今後の生活に生かしていこうとする姿を目指す。

#### (イ) 指導のポイント

振り返りの中で、ワークシート等を活用してまとめを行い、新しい発見や視点を全体で共有することができる場面を設定し、集団の人間関係が向上していく過程についても気付けるようにする。

### 3 活動プログラムの目標・評価の着眼点

様々なアイスブレイキングやアクティビティを通して、集団の一員としての意識を高め、集団が集団として機能するためのメンバーシップやリーダーシップを養う。

評価の着眼点	目 標（評価の視点）	期待する具体的な学習状況
道徳的価値についての理解を自分との関わりの中で深めている様子	自分の役割を責任をもって果たすことの大切さについて、様々な立場に立ってできることを考えようとしている。	課題を自分のこととして捉え、他人の意見を尊重しながら、自分の意見を客観的に吟味し、主体的に課題を解決しようとする姿勢で発言している。 (道徳のノート、発言、ワークシート)
物事を多面的・多角的に考えている様子	集団生活を向上させるために一人ひとりができることを様々な視点から捉えようとしている。 自分の役割と責任を果たし、集団行動の充実に努めるために、自分自身がどうするべきかを考えている。	課題解決のための様々な意見を尊重し、考えたり話し合ったりしながら積極的に合意形成を図ろうとしている。 (道徳のノート、発言、ワークシート)

### 4 青少年研修センターでの展開 [特別の教科 道徳 2時間]

#### (1) ねらい

「グループワークトレーニング」を通して、コミュニケーションスキルを高め、協働しながら活動する中で、学級・学年のよりよい人間関係を形成しようとする態度を養う。また、課題解決の方法や約束について話し合い、合意形成を図り、自分の役割を意識しながら活動できるようにする。

#### (2) 展開

活動・場所	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
【事前学習】 センター (学校)	1 グループワークトレーニングの内容やねらいについて説明を聞く。 2 取り組む課題解決ゲームについて、グループで取り組む方法を話し合い、合意形成のもと、試みる方法を決める。 3 ワークシートに個人の目標を記入する。 4 グループ内で個人の目標を発表し、グループでの目標を決め、ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前にグループ編成を行っておく。</li> <li>グループワークトレーニングの内容は、事前にセンター職員と引率者と打合せを行い、生徒の実態に適した課題解決ゲームを選択する。</li> </ul>	(1)
【グループワークトレーニング】 センター	1 健康観察、安全指導を行う。 2 ワークシートの、個人・グループの目標を確認し、意識化を図る。(取組に向かう姿勢等) 3 グループワークトレーニングの実際 ・わたしを知らせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の状況に応じて、アイスブレイキング(雰囲気作りのレクリエーション)を取り入れる。</li> <li>課題解決ゲームの流れを組み立てる。</li> <li>課題解決ゲームに取り組みながら、合意</li> </ul>	2

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イメージの振り返り</li> <li>・ ペーパープレゼント</li> <li>・ 砂漠の選択</li> <li>・ NASA</li> <li>・ 先生ばかりが住んでいるマンション</li> <li>・ ペーパータワー</li> <li>・ ボランティア</li> <li>・ 和みゲーム</li> <li>・ 超・大人気とんこつラーメン屋</li> </ul> <p>※ それぞれの課題解決ゲームについて、事前学習で決めた方法で試み、工夫・改善された方法で実践する。</p> <p>4 活動の終わりに、活動を通して感じたことや気付いたことなどを発表し合い、思いや考えを共有する。(よかったこと・うれしかったこと等)</p>	<p>形成の手順や課題解決の方法について学ばせ、円滑に進められるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全面に留意して活動させる。</li> <li>・ 自分の気付きや、グループで出された意見等を記録させる。</li> </ul>	
【事後学習】 センター (学校)	<p>1 活動を振り返り、個人・グループで立てた目標を振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>2 記入したことをもとに、グループ内で発表し合い、思いや考えを共有する。</p> <p>3 これからの学校生活でも継続して意識したり、新たに学級の目標に取り入れたりしたらよいことなどについて話し合う。</p> <p>4 グループで意見交換したこと、話し合ったことを全体で発表し、共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人での振り返りは、集中して取り組めるような環境を設定する。</li> <li>・ 互いの思いや考えを尊重できるような話し合い活動になるよう支援する。</li> <li>・ ワークシートに記入させ、発表の手だてとなるようまとめさせる。</li> </ul>	(0.5)
学校	<p>1 学級目標に新たに追加された項目を学級掲示に付け加える。</p> <p>2 学級全体で確認し、意識して学校生活を送れるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動で学んだことを学校生活でも継続して実践できるよう、適宜声掛けを行いながら支援していく。</li> </ul>	

### (3) 評価の観点

- 道徳的価値についての理解と自分との関わりの中で深めている様子
  - ・ 自分の役割に対して責任をもつことの大切さを、様々な立場から理解しようとしている。
- 物事を多面的・多角的に考えている様子
  - ・ 集団生活を向上させるために、一人一人ができることを様々な視点から捉えようとしている。
  - ・ 自分の役割と責任を果たし、集団行動の充実に努めるために、自分自身がどうすべきかを考えている。



# 「グループワークトレーニング」振り返りシート

( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

○ 自分の目標

○ グループの目標

○ グループでの活動を振り返り、あてはまるところに☑を付けてください。

1 グループの中で、進んで意見を述べることができましたか。

よくできた    できた    あまりできなかった    できなかった

2 他の人の意見を、進んで聞くことができましたか。

よくできた    できた    あまりできなかった    できなかった

3 グループの中で、自分の意見が活かされましたか。

よく活かされた    活かされた    あまり活かされなかった    活かされなかった

4 自分の意見をまとめ、話し合いを進めることができましたか。

よくできた    できた    あまりできなかった    できなかった

5 自分の意見を押し付けようとせず、友達の意見を受け入れることができましたか。

よくできた    できた    あまりできなかった    できなかった

○ 活動（話し合い）を通しての感想（例：いいなあと感じたことや気付いたことなど）

○ みんなで話し合う時に、どんなことに気を付けたらよいと思いますか。